



日本百將傳一夕話

六

^ 13
3566
6



門 13
號 3566
卷 6

日本
百將傳一夕話卷之六



東都
目錄

松亭金水謹撰

- 源頼政よりのまさ
- 平重盛へいらのり
- 平教經へいらのり
- 源義仲よりのなか
- 源頼朝よりのちか

以上五將目錄終

百將傳一夕話卷之六目錄

早稲田大學圖書館
昭 34.6.3 燹
藏書

源頼政
源頼政
源頼政
源頼政
源頼政

源頼政
源頼政
源頼政
源頼政
源頼政

源頼政

人皇十代高倉帝治養四年五月廿六日在
今安政三辰造 六百七十七年成

源頼政者頼光之裔也善射善

倭歌秀于士林治承之間欲滅

平氏遂相戰於宇治自殺 享年七十

頼光 攝津守 正四位下
前陸奥守鎮守
府將軍
頼国 右馬頭
下野判官從四位下
仁下美濃守
頼綱 多田左門尉
仲政 兵庫頭 從四位下
頼政 三位入道 兵庫頭
法名頼圓
仲綱 伊豆守
兼綱 源大判官
仲宗 大藏人
實義賢子
頼兼 源藏人大夫

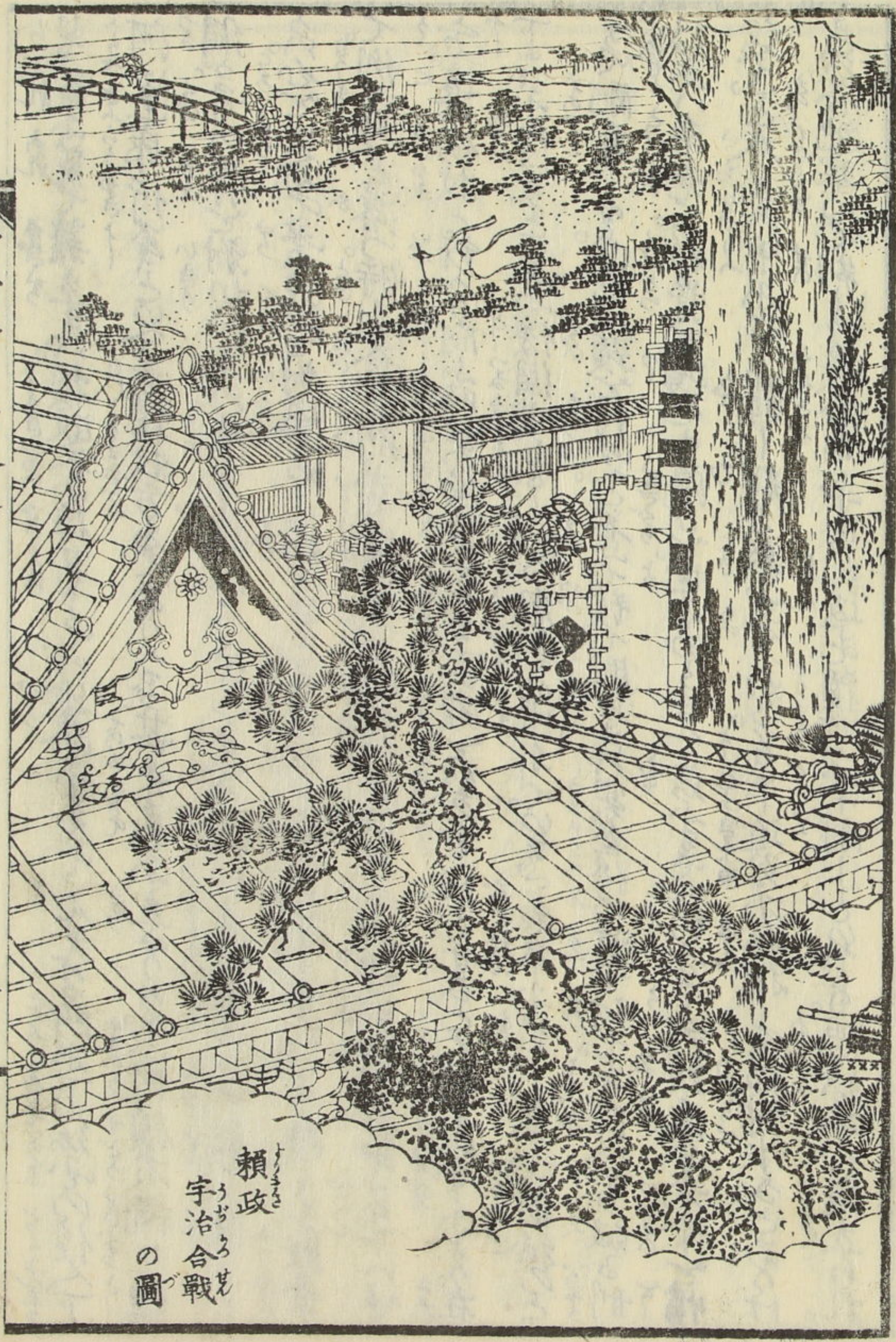
頼政ハ馬小精ク。其和尙と善キ。世人のよく知る。頼政家集
とて今に行ふがくて頼政は位を奉て歴位階の淺き。歎き。一首の歌と詠
まのちる。其乃一あけ。其木の下に。あひ。拾之。世と。うら。海海。て。是
懐。奏。七。從。位。叙。ま。七。国。史。畧。に。云。推。子。四。位。公。言。相。同。也。と。高。治。養。二。年

百井作ノ言卷之六

源賴政の略

源三任賴政入道の家系前小の令。清和源氏の嫡流とて弓馬の道小達
 一のひまの和方と善一のふとの世人の智所小て実小優美の大將と謂ふべし。
 のまご杜幸小水一なる頃平治小信賴義朝の礼出奉てその身固より源家の
 なまに左典廐義朝小属一。一族郎従と引俱。戰場へ出られけきどもい
 平氏と小會せとあさる。然る小上皇河内仁和寺へ主上二條六波羅の榮
 へらせのひねと雪えり。かくて平氏へ對し弓響んと令く朝敵あり。のりすべ
 一と百餘誘めて六條河原小扱つ。のまごの妻ね折らる。義朝の嫡男悪源太
 義平侍賢へ門へ押寄言。左衛門佐重登と名く小切捲り。勝負と交せんと挑み
 らる。重盛郎等共之方湯門兼安と新藤左衛門家兼が討死をる小固て卒
 ます令と依りり。のひ六波羅へ落られ。のまご平今のは追とぬ。十六誘と引纏めて

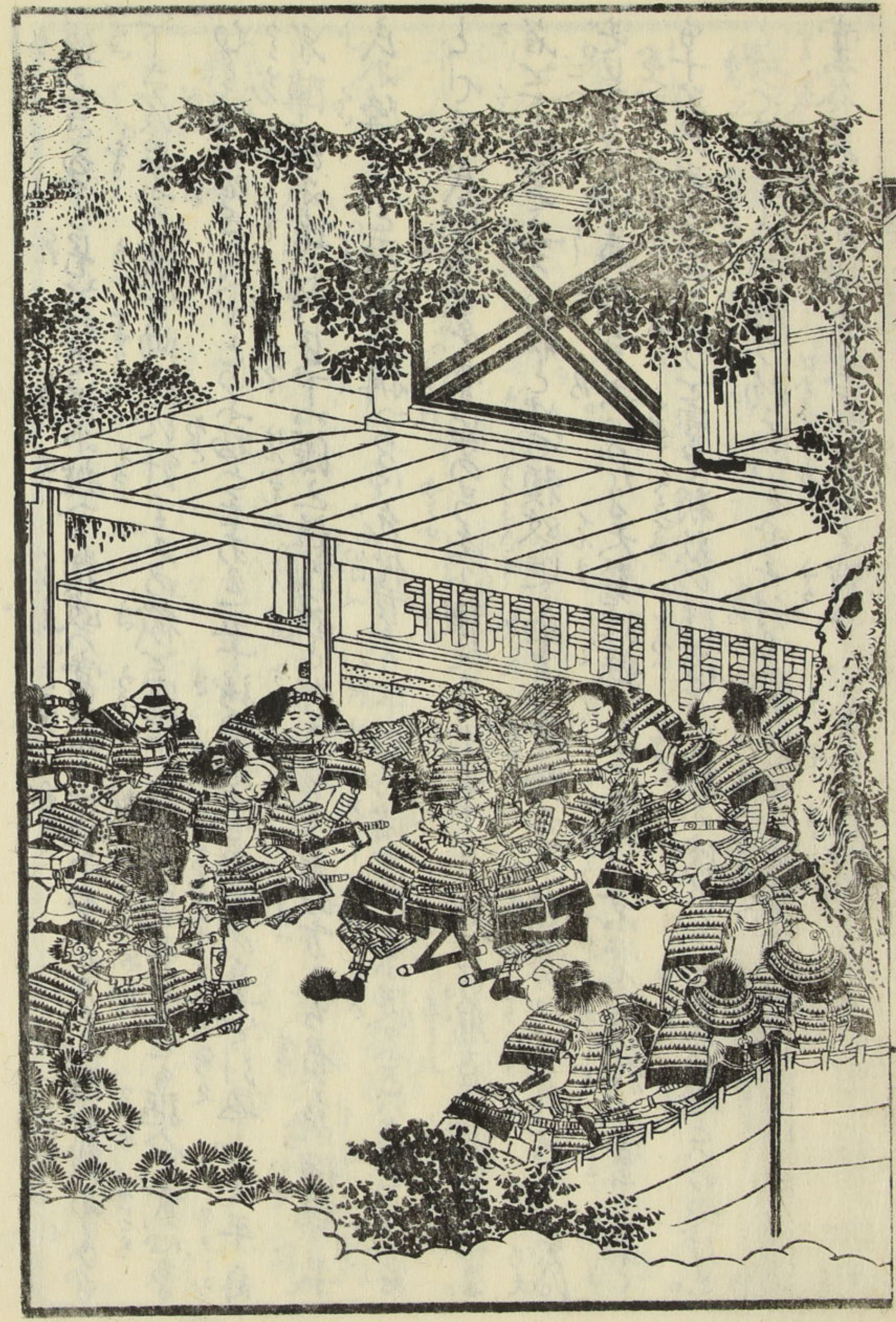
源三任賴政入道の家系前小の令。清和源氏の嫡流とて弓馬の道小達
 一のひまの和方と善一のふとの世人の智所小て実小優美の大將と謂ふべし。
 のまご杜幸小水一なる頃平治小信賴義朝の礼出奉てその身固より源家の
 なまに左典廐義朝小属一。一族郎従と引俱。戰場へ出られけきどもい
 平氏と小會せとあさる。然る小上皇河内仁和寺へ主上二條六波羅の榮
 へらせのひねと雪えり。かくて平氏へ對し弓響んと令く朝敵あり。のりすべ
 一と百餘誘めて六條河原小扱つ。のまごの妻ね折らる。義朝の嫡男悪源太
 義平侍賢へ門へ押寄言。左衛門佐重登と名く小切捲り。勝負と交せんと挑み
 らる。重盛郎等共之方湯門兼安と新藤左衛門家兼が討死をる小固て卒
 ます令と依りり。のひ六波羅へ落られ。のまご平今のは追とぬ。十六誘と引纏めて



頼政
宇治合戦
の圖

〇三

洋五堂成反



君三堂成反

り。荒れ荒れと難多き。頼政は小碓易とて四途路小あつてらんを所小下後山の住人下
 河望那行とて又も頼政方とありなる其表小あつる山内瀬瀬川は後
 細骨の骨と射切けき馬より落んとて又も刑罰を是とて夫弱小弱とて
 心と定めて其の故と射返せむと励まきとて杖突て茶煎えとすれども痛も不眩暈
 て例小禮と落つ時小斎名別當実盛天刀技醫とて又も向へ後細骨と射て是下味
 方遠へ何故と射る向ふ時実盛登て勇士の頭と敵の方へ把りまきと大將軍の令小あり在
 下と小向ふとて余後細嘆息とて忽劇の中へいひまき若年小坐とてあつ。箇社のと
 是配敷一のふとて頭と射りて各へ頼て眼まきとて実盛伴の首と射て本陣へ射りて刑
 罰六半老と骨骨と堀老も瀧とて世小あせんと思ふまきと射る平下被為小老令と情
 起きと大の甲小下一醫。群を敵小あてか。平近男小指揮とて彼射するとありけ
 ば。各池塞つて射る故もあつ。引返して頼政軍剛とてども。悪源太小蒐まられ。

今の足速と勢と纏めて平家の方へ加はり。心もいひまきとてさう小義平小射せし
 きて思ひあらずも同士討ち。頼て平家小慶ま。又時源家頼慶まき。前象と
 ありまき。かくて軍色の刻り。酒の刻り果。六諸人。まき。一主上
 上皇も還幸なつて。平家小是より功小修。一高佐官小昇。威勢宇宙小並ぶ
 りの。頼政源家の嫡流とて。か平氏の業とて。快とて思ひ。時の盛衰
 陰方より。匿くとて送り。治承元年夏卯月。か。の国月師高。平小就て。敵
 山の衆。例の如く。懐抱して。王の神樂と振。え上落ま。と。源平。源家の大。お
 小令。ト。禁門と固め。頼政。少宗。佐の。弟。從省。授。前と。言。餘。誘。北門を
 堅心。小。敵。山の大。衆。等。の。神。樂。と。振。え。ま。り。る。西南の門。平家の人々。大勢。光。園。を
 が。北面。る。總。殿。の。陣。頼。政。纒。小。言。誘。少。その。容。寒。くと。え。え。ま。が。陣。より。入。れ。て。大。衆
 等。と。不。討。ひ。る。頼。政。急。小。馬。より。飛。下。り。整。と。腹。で。神。樂。と。拜。も。屬。從。兵。士。等。也。

各神樂と拜し畢ま大御の命にや。又大衆等が陳小進と稱遠回の結構小依て兵
 庫頭頼政とて護る。然まども豫てより。山王権現と信むる処争。皇命なりとの事。
 神樂小對てりて響んや。然ま六路とて用きて大衆等と通まげまど。然てハ。銀命
 小依くくるまの法てまど通らんとあり。是非まく一戦小及んを。大衆等ハ豫てより。勇
 名の傳えあり。然るとまの盛る。平家の固め。多勢小怖て頼政如ま。小依の陳小
 對ひしと世小傳えま。假僅小りわりひるん。篤く只唯一の事。とのひ賜つと。早と雄の
 若法師們的傳もあま。何条假僅といふのあま。押通まると決り。処。接津律師
 高雲の二落の會儀。若先。年先る。大衆と判。只今の使者の口。彼遠。道理を極せる。多
 勢の固めま。まど破て通らんと。神威ハ俱小潔。小勢とん透。通らん。後代ま。の
 恥辱ま。殊小あま。頼政ハ六孫ま。源氏の嫡。弓前小放て。その名と揚。ま。か
 道小妙と傳り。近衛院ハ在世の事。深山花との頼と。ま。ま。小歌詠せる。小是ハ

ひとと蹊蹊頼ありとそ。く。頼煩らひしと。頼政要時ら。案。深。木。の。その。木。梢
 と。も。か。ん。え。さ。に。櫻。花。小。あ。ら。は。し。小。け。り。と。詠。言。光。七。君。と。始。め。く。是。と。称。讚。せ。り。か。る
 魁。男。の。固。ま。と。念。ま。う。恥。辱。と。見。せ。ま。ら。ん。い。ま。骨。る。奉。勅。あ。ら。ん。東。の。陳。頭。侍。賢。門
 下。入。ま。奉。れ。と。い。は。に。依。て。その。儀。小。向。し。東。の。陳。頭。對。ひ。り。さ。の。内。大。臣。左。大。將。重。盛。朝
 臣。固。め。ま。既。小。双。方。の。闘。争。と。あり。大。衆。ら。ち。負。て。神。樂。と。捨。違。く。小。逃。飯。ま。り。然。て
 後。も。ま。く。大。勢。降。伏。ま。り。ま。り。ま。り。是。非。ま。く。大。納。言。時。忠。と。り。て。衆。徒。等。が。憤。り。を
 宥。め。り。し。師。高。と。衆。一。の。其。後。治。兼。に。奉。小。ま。つ。て。平。家。の。暴。虐。の。ま。長。し。君。上
 と。後。小。ま。ま。い。心。あ。ま。き。も。是。と。歎。き。思。ひ。ぬ。い。あ。こ。ま。り。高。頼。政。も。吾。深。家
 の。嫡。流。と。生。ま。暁。ぐ。の。埋。火。あ。ら。で。在。る。元。元。小。世。と。送。る。元。道。の。平。氏。が。権。揮。と。受。け。し。
 ひとと。念。念。ま。と。ぞ。う。折。も。あ。ら。ば。兵。と。奉。逆。を。討。て。宸。襟。と。休。め。奉。ら。ん。と。思
 ひ。の。人。と。微。力。あ。ま。六。路。方。あ。く。空。あ。く。月。日。と。過。ま。ま。る。が。子。息。伊。豆。吉。仲。綱。ハ。高。清。前

の腹に生え馬の園より家の飛ぶ。有祿小も暗らむ。優小難しき人。此の馬と畜ひ日未秘藏し。平宗盛き及び切小難を。此の頃餘小宗源ら。宗盛が為さる田舎遣し。いとひまき。此の頃餘小宗源ら。宗盛が為さる田舎遣し。いとひまき。此の頃餘小宗源ら。宗盛が為さる田舎遣し。いとひまき。

正生ても何の甲斐あり。と大小懐て。頼政は言。法外の奉勅。其の義あり。と密小使宣と。親王の御見たり。二條高倉小。以仁親王の。法皇弟の皇子あり。新院の御見たり。二條高倉小。と申ける。常小の所所へ往きて。親王の御見たり。二條高倉小。と申ける。常小の所所へ往きて。親王の御見たり。二條高倉小。

貴儀指神子と崇教してその名隠れ多くせざるが先頃所へ召さるる宮中相と親
 せり不惟長敷とて必志の帝位小即多しとせりるの忘さるる今頼政が勅
 せり惟長が時第の別を来し必と世を小的當まると一兩日と返て頼政小忠義
 引の由命あり別宜を針らんと令肯教多と通とさせられ頼政深く敬びて故
 為義が末ふる新官十郎を盛家と語り甲斐信濃と始とそ餘の源氏筋
 知り早と上落をすべとのい合めて出せさせ不於て義盛の近より美濃尾張の
 源氏と始とて末義仲伊豆の怪が思多小別と流人前右兵衛佐頼朝小ととるが
 義盛の本所紀及新官をそのとせ及び平家へ追進小及小園て官の忠義叛発を
 別官と捕奉れと檢非違使小宣有下と不於て源大夫判官兼綱頼政が二子なる小より密小と
 二白餘と従て二條高倉へ押寄る源大夫判官兼綱頼政が二子なる小より密小と
 こととせせり入道該ま官の四方へ云のより演説るまづ二井の園城と落させ

ゆくとやりの宮中安外のこととせり小勢き思ひ召しとせんと猶諒の小折長谷谷信
 連とて大別の長居合せとて箇様と小あり女房の安小格へ宮と落しとせける
 信連も徳俱小と頼小命あれと所所小某が侍らるる人よと知りてゆふの甲斐あり
 教小の過で落しの後日の恥辱とて所所踏止まり討ひまの女房小見苦敷の把収させ居間
 血跡より参るべと回を長と所所小飯り残る居る女房小見苦敷の把収させ居間
 程の軍兵深くとか奇せて官中謀叛のと隠せり別を宣を授て檢非違使兩
 人迎小参りて後と出ると小信連をてとて這り置たりや田謀叛とい何ぞ官中
 情ありて長兵衛尉思田とせり尾張の頼政とて何ぞつれば官中を候あり
 田所中と探し奉れとい間ありととれと信連諒を覚悟あり衛府の太刀と甲
 小醫し倚来る若の援ひありと幸ひ秋休とて遠の御籍と大長刀と水車小輪と突
 てかると信連の猶事とせせ飛鳥の如く身を落らと先小進に官人等十口人を截例

八人小傷損一六太刀の邊えよりあきと折る。そは是も腹切らんと腰探り小鞘巻
 何時の事と小落て去。遠使あんと大々と度げ。傍まあるを徒捕おせんと狂ひ廻るの
 官人が是より難刀へおんとて糸損ト太股と劈と膝むらと折重なり。敢て搦り捕
 らるなり。かくて官人等皆所小堂と普く探り索むるも官の口在所居ておまは周章
 狭く女房と信個呂捕へ六波羅へ参る。宗盛大床小衝立て。宣旨の口使とありのど
 かく又傷小及ぶと其の罪控へてと妻の口信連少一由屈するも。あは群盗折る小
 記や武ひの勅命と偽り宣旨と欺き押入る。彼も是も定めてその類ひも。官
 口縁叛の口在下更小兼知せ。賊等虚言と構へて。初まあわらんがらん。京
 小園てむの如く。かま官の口在所居る。兼知はらば。ま存る。武士一旦言
 すと。思ひつると。平うさえ。首と切ると。まありの物も。口自まつて。あつ
 け。是の並居る平家の侍も。現あ一人。平千と。是等。人と言は。あらん。か。大割の武士。口

きえ上の後援や。とほねのある。清盛の思は。け。今。佐。伯。者。小。野。野。とい。新。へ
 流。さ。さ。る。後。頼。朝。卿。の。世。小。乃。ひ。その。と。言。甘。く。神。妙。と。口。威。あ。つ。能。及。の。内。半。那。と
 賜。ひ。と。小。安。堵。と。子。孫。今。小。至。る。ま。連。綿。と。て。長。九。郎。左。衛。門。と。名。号。と。ぞ。若。小。頼。政
 由。の。夜。の。中。嫡。子。仲。直。と。仲。綱。二。男。源。大。夫。判。官。兼。細。其。の。餘。一。族。郎。従。と。引。俱。一。國。城
 小。平。家。の。大。軍。と。早。く。追。討。する。彼。等。は。此。処。を。便。悪。し。早。く。南。都。へ
 小。平。家。と。官。と。馬。小。宗。希。と。南。都。の。方。に。逃。げ。官。の。口。軍。事。小。平。家。と。自。之。夜。は
 寝。も。さ。る。七。度。ま。落。馬。の。口。か。て。路。次。の。不。ど。首。未。あり。宇。治。川。と。渡。り。雲。時。程
 平。家。院。へ。入。て。慰。め。の。小。平。家。軍。間。も。あ。り。押。寄。ると。彼。等。は。宇。治。の。橋。板。に。放。し。川。小
 副。て。待。蒐。る。小。果。と。平。家。の。大。將。軍。小。左。衛。門。督。知。金。頭。中。將。重。衡。護。摩。守。忠。度。士
 大。將。上。総。以。忠。清。河。忠。綱。飛。騫。守。景。家。以下。有。国。盛。嗣。前。月。忠。光。景。清。忠。七
 等。と。先。と。て。約。合。を。結。ぶ。二。万。八。千。余。騎。本。幡。と。て。ち。城。で。宇。治。橋。小。押。寄。り。陣。と。揚。る。也。

宮の四方も岡と合ひ舟の先陣と橋の板に残らむ引言ぞ押ふの林們と声かくま
と通かこま言軍兵も更小耳小もつ入とび曳く声も押やと小端多河へ隔て流つ沈つ
漂ふ者その敷と知ふらびかす所小宮方より筒井の淨明矢切の但馬一末法師もど
えい井も小名と得る荒法師もありければ疎き橋板何の苦もあらず後を攻
撃も小或ひの難刀小掛らして美例小落もあり又ハ穀近く射らば嗟とも言ひて轉ふ
もありてこの法師武者が為小討りりの四五十誘小及ども大軍あるは殊ともせむ叫き
喚んで挑戦ふ後とも橋桁の疎きが上の聞ひあるは多勢も更小七の甲斐多千の上総
小忠清ハ大軍の軍前へありこの辨也ハ戦ひの何時果べともありやえむ河と渡り小
着ハるけと折志の五月雨小水重増馬の足立難うんをいふせむやと言も果ぬ
小下野の信人足利田原又太郎忠綱先陣と叫りて馬と祖とらち入るといふは小励されて
日れぬと馬うち入はち中不伊勢伴登の兵とも馬後と組て流し蒐も小烈しき水小

お流さる萌葉緘赤緘花やう不獲ふさ水小浮そ漂さる仲綱逆小うち祝や
伊勢武者のささひさりの後志宇治の細代小かりけるさうとかく倉卒の中不は荒
まふのとも傳ふ大船かて先陣田原又太郎その餘の軍勢河うち渡り平治院攻
かる元来頼政ハ無勢ハ恃切山門ハ心憂て言甲斐多南都の勢ハいまも未だ今と
最期とあふ宮と落し糸せんと言時ら先防矢る源大夫判官兼細も終小討と
のみり伴臣守仲綱も深渡救多負足は釣敵小入て自害のゆ頼政ハ家隷る丁七
唱と候へ振き吾首討てと宣て芝の上小水一扇と用て二首の穉世と詠のふ埋木の花
さくともありり下才れさそぞあれなりけり腹切の切のハ唱の首と討落し石と縛表
て宇治川の早き瀬小沈や滝は競とさ遠て飛下小忠とぞ竭ける頼政最期の逆の事と
周小の滝は競宗盛と欺きて南條との名馬と奪ひ金印とて放せりかの本
下の報いせり是等も精く脱んとすれど撃きとて是と首く看官宜く奈うと

頼政二世の物語右小の所、その大略あり。大内小怪を射て獅子王といふ以劔と宮女、鳥
 浦と編ひらる。むきぞうららのたれ。或ひの宇治敷と連ぶのり。又保元軍後ののり。猶
 ろの外も種々の物語多し。といども。緯長き小よりてこと。有く。個人は小膽多きを
 彼の知る所あり。和漢之才。國會と按むるに雲間の怪を射て近衛帝の不豫。乍ま
 二條帝の時。天上の鶴と射落し。其名大頭。つると載り。然れども近衛帝の時。怪鳥を
 射て所悩と安んむ。その鳥の鳴声。鶴小似。つと。普く世間小傳。まこと。二條帝の時。こと
 のそ。世小再び似。つと。ある。死
 栗山愿の曰く。以仁王の二挙功。あき小似。つと。いども。淨海の法。暴殺て責るのり。若
 ると宮の軟質。つて。血と瀧。ぎ袂と投下。猶。犯罪。隸と鼓。舞して。平氏百萬の兵と抗む。
 事成らば。いとも。大義。既小天下。小伸ぶ。豪傑。頼て。死す。義兵。つて。奮。果。つて。維功。ぞ
 やと。摘要。実小頼朝。義仲の。義兵。この。舉小。周て。萌。せる。ある。つと。

清盛 太政入道	重盛 小松内府	維盛 三位中將	資盛 新三位 左衛門將	清経 從四位下 左將	有盛 從四位下 左少將	忠房 侍從 修理大夫	師盛 從五位下 備中守	宗實 從五位下 侍從
------------	------------	------------	-------------------	------------------	-------------------	------------------	-------------------	------------------

平重盛者清盛長子也平治之乱守
 禁中與義平相戰數回遂立軍功官
 階登庸任内府兼左大將舉世皆仰之
 不幸即世無不哀惜焉

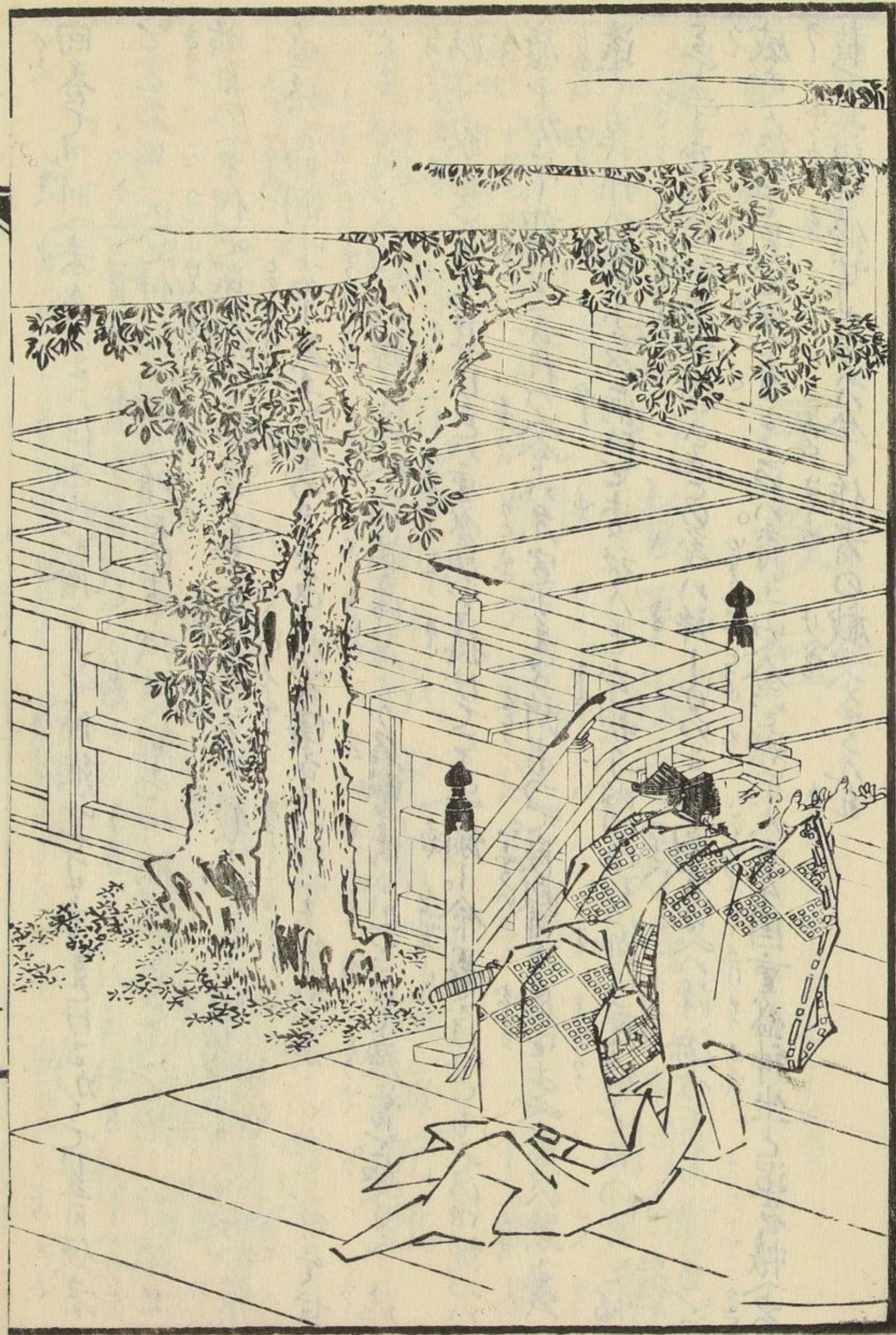
人皇十代 高倉帝治養三年八月一日薨
 今安政三辰造六百七十八年成

清盛父子態野に清信頼義朝等その亡し時として兵を發し平治の亂あり重盛
 發て進に所洛し賊と討む。小於て擡礼一時に平らぐとせ得たり。実小文武
 兼備小忠孝に篤く克人と悦服せむ。本朝の賢人と稱すべし。

平重盛の話

その公の一世忠孝小篤く。上と教ひ下と憐ま。屢々洋海が暴虐と練ゆ。若年の
 間放て事ある。実小の功績あり。不幸短命にて薨す。小至つて清盛の我
 大不慕。或ひは法皇と鳥羽殿小幽し。ま都と福原小移す。暴行僭上。衆人眼
 と側つ。こま練る。のあき小依てあり。或人らと評して。ま。実小至善の人なりと
 いども。宋の育王山へ砂金と賄。ま。熊野の令。清のさ。に。公の行あり。と。其
 どもあの兩事。全く野史小傳ふところ。正説あり。ま。源平盛衰記
 平治の如き。各実記の正説とて。所謂鴻儒博覧の人。ま。と引用する。と。いども。此
 頃佛説大不行。ま。只骨佛書の奇。ま。小憤ひ。清盛と。其。の。化。と。する。が。如
 き。曾て。定。見。が。き。所。初。の。如。く。の。異。説。多。ま。され。右。小。の。兩。説。も。信。偽。定。ま。ら。ざ
 る。あり。或。ひ。は。十八の燈と。點。侍。女。と。て。舞。一。見。物。ま。故。小。燈。籠。の。大。長。と。い。ふ。と

其ら。ま。偽。然。や。否。や。倘。実。事。と。する。時。の。浮。屠。小。溺。は。の。ま。ら。び。全。く。兎。戯。の。沙
 汰。と。い。ふ。と。の。餘。の。公。の。傳。小。於。て。一。由。怪。む。所。あり。就。中。新。大。納。言。成。親。源。練。露。頭
 の。と。泥。洋。海。怒。つ。て。法。皇。と。押。菴。奉。つ。つ。んと。企。て。一。と。重。盛。を。て。大。小。争。ま。き。西。八
 條。小。到。り。て。法。練。ひ。の。時。淨。海。腹。卷。の。う。へ。小。素。絹。と。表。せ。ら。ま。さ。る。と。其。の。胸。金。拍
 目。と。素。絹。と。透。さ。て。う。え。ける。と。押。隠。ま。んと。素。絹。の。前。を。引。破。り。ひ。ひ。ひ。と
 い。へ。ども。重。盛。が。見。る。所。と。犯。て。あり。実。小。言。行。能。人。を。服。ま。る。徳。小。あ。ら。ず。と。初。の。如
 く。ある。ま。き。や。の。一。事。を。り。て。平生。の。行。儀。と。想像。ま。さ。り。放。小。の。公。世。を。ま。ゆ。ひ。宗
 盛。嫡。子。を。小。及。び。て。知。盛。教。経。が。ど。き。智。勇。小。蘭。を。一。族。の。將。帥。あ。ま。と。忽。地。滅。亡。小
 及。び。り。大。將。の。賢。愚。服。し。う。重。盛。一。時。皇后。建。礼。院。の。所。小。あ。り。が。何。方。より。う。ま。あ。る。ん
 大。床。小。巨。蛇。蟠。る。重。盛。と。ま。り。て。女。侍。と。驚。し。以。て。后。小。及。ま。んと。思。ひ。潛。小。左。右。の。あ
 と。以。て。其。の。蛇。の。首。尾。と。壓。へ。袖。小。拵。ひ。徐。小。捕。へ。出。て。誰。う。あ。ると。呼。ぶ。人。仲。細。唯。と



可子傳二話卷六

〇十二

群玉堂藏板



重盛公
の圖
優美

百非傳一話卷之六

群玉堂藏板

回春て、前へ来りけし、六件の蛇と捨よとて仲綱小づりて、さきとける。かくて羽呂使
 者とも馬一匹と仲綱小贈り。昨日の事、賞謝志、仲綱謹とて、拵し、拵明
 昨日の事、何ぞ還城樂小似する。と大小傳、美を履しとる。還城樂の舞の容、蛇と宗
 盛法で仲綱小、木下麿毛と望めると、その差雲、壤あり、一時重盛病小伏して、醫者療せ
 ども復す。又洋海深く、墓への頃、高藤より名醫来る。彼と召て療書と加へんと流
 法守家貞とて言せけし。重盛枕と據けてとて、謝し、命畏しとて、その四洞小
 應どがごと。如何とされ、人今へ元定まると所、あつて良醫由自由まへ、其
 遠く異邦の醫小、の病ひと委れんと。本親小醫る如し。重盛とて、その身と情
 と、争本朝の恥辱と遺さんとの義ハ許し、の事と回言のへ、洋海、彼の職量と
 威むとのへ、是とみて看ると、此の青王山へ金と贈り、大日本国、重盛神坐と還去、懐
 載て眞福と修せしとの、今く作者の戯文あるを

平教經

人皇八十一代 安徳帝元暦元年 戦死
 今安政三辰進六百七十二年 成

平教經者平族之勇將也工射西海

南海之間連戰連克壇浦之役欲與

義經相接而不成遂奮呼投海而死

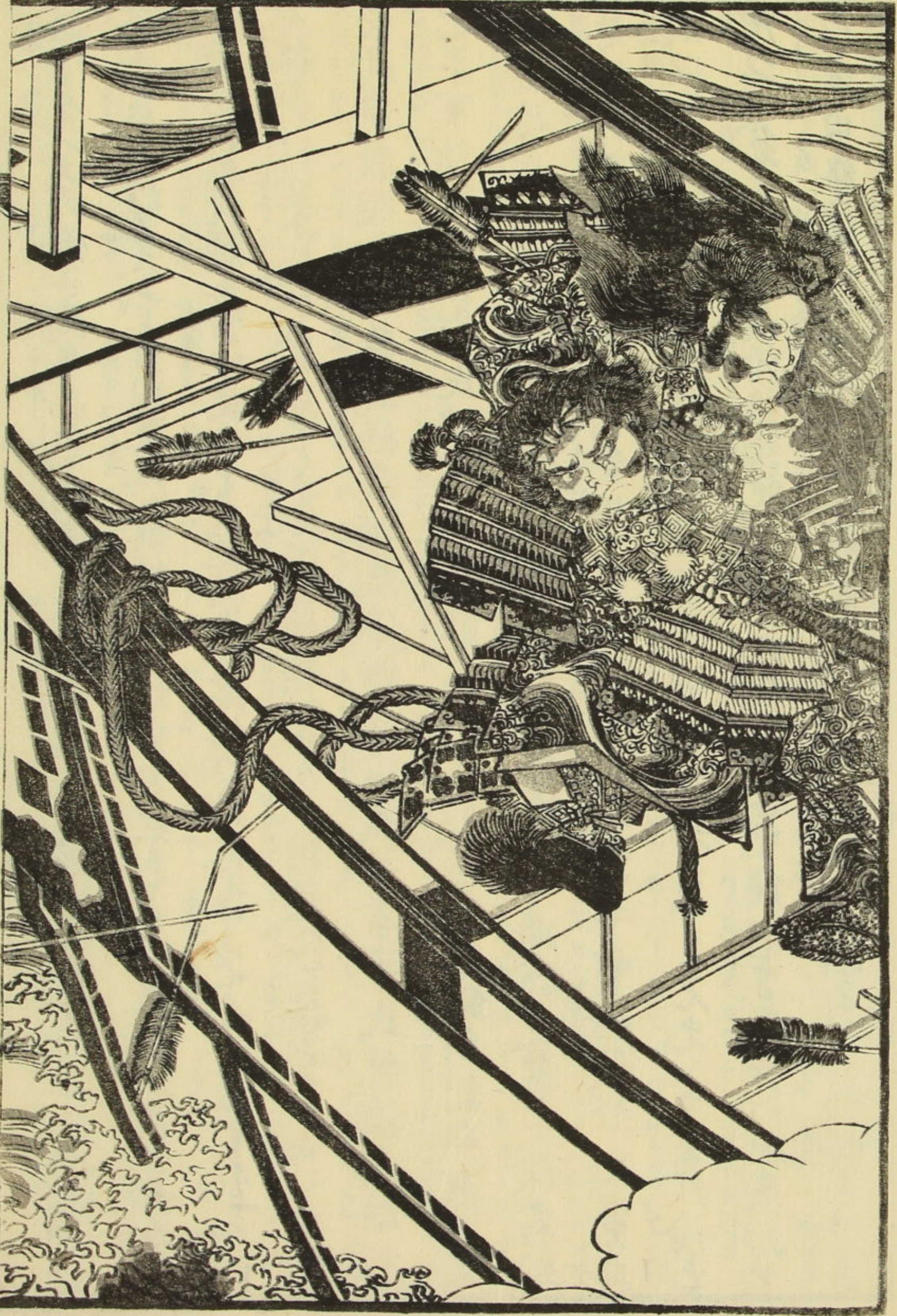
平家義仲の爲に都と遷落さ。一旦南海の波上小源ふとて、父とも、知盛教
 經等より計策と廻ら。不承者と攻伐し、再び拵津小、飯も十歩の兵
 と督し、一谷の城、墨小、源家と鋒と率いとて、是と依ぐ、教經の功績
 あり、然とて、時運傾き、竟に義經の爲に、城墨と屠らば

清盛 相國入道
 家盛 從四位下 左馬頭
 賴盛 正位大納言 池殿と号す
 通盛 從三位 越前守
 忠快 中納言 律師
 伊豆国流人
 教經 從五位上 能登守
 業盛 從五位下 藏人
 一谷之討死
 此外女子累に

平教経の話

平家源前平朝宗の如く、世も傳ふ能登守教経、平家の勇將、刀を射、飛小
 達、実小法弓の精兵、加神智、孫青柴、凡虞の及ぶ所、あらねば、戦ふ、毎小教を
 威伏し、向ふ所、とて勝る、とる。真なる、平家の一族、南海小を、とて、中玉の深
 氏頼、執小、心、傍て、平氏、不、叛、く。教経、怒、て、徳軍、と、督、し、城、と、屠、し、墨、と、板、を、勢、ひ、風、の
 突、ま、る、が、如、く、本、曾、義、仲、花、洛、小、在、り、と、い、ふ、と、心、安、ら、ら、ば、矢、田、義、清、小、心、伏、せ、し、
 む、平、家、の、例、の、教、経、と、な、り、と、て、体、中、水、洛、小、出、張、区、奇、計、と、以、て、と、と、と、撃、つ、る、戦、闘、不、
 小、突、つ、て、義、清、い、ら、不、戦、死、し、源、軍、大、小、潰、れ、を、は、ら、不、於、て、中、国、に、平、家、小、入、の、叛、く、り、の
 る、竟、不、一、谷、小、據、と、と、得、り、と、時、義、仲、功、小、終、り、種、く、冰、礼、の、と、ある、小、因、て、頼、朝、法、
 皇、の、令、と、重、頼、頼、義、経、の、二、弟、と、て、義、仲、と、栗、津、小、伏、つ、平、家、の、虚、と、窺、ひ、て、再、ひ、洛、へ
 入、ら、し、と、する、不、件、の、軍、頼、小、果、て、頼、朝、義、経、兵、庫、小、向、ひ、丹、特、西、州、の、境、な、る、二、草、小、陳

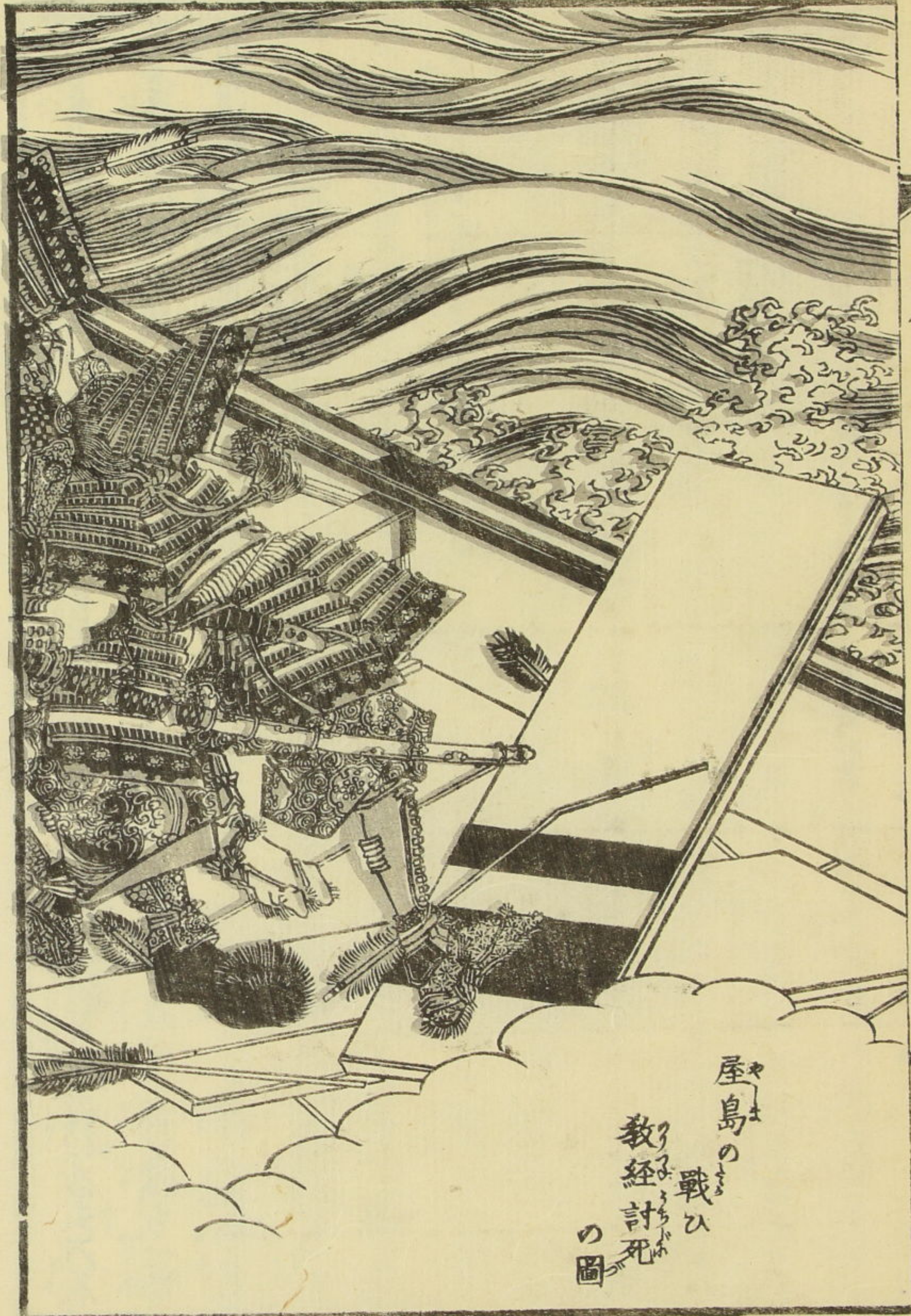
と、する、平、家、資、盛、新、有、盛、左、と、と、是、と、逆、ひ、撃、つ、む、に、義、経、頼、朝、の、名、を、と、る、不、
 意、小、平、家、の、陳、と、若、ふ、平、軍、勢、を、ま、た、た、れ、を、周、り、て、頼、朝、へ、生、田、の、表、義、経、の、兵、を、領、ち、一、隊、
 の、主、肥、次、郎、真、平、と、し、西、門、小、向、し、め、その、月、の、二、千、餘、兵、と、卒、て、野、城、小、ら、ち、對、し、其、奇、策、
 神、の、如、く、故、小、平、軍、一、谷、と、逐、落、さ、し、て、波、と、小、漂、ふ、教、経、が、如、き、勇、將、也、源、方、の、崩、さ、し、
 に、至、つ、て、如、何、と、も、詮、方、あ、く、心、あ、ら、ず、も、城、と、兵、指、津、兵、庫、の、深、小、副、と、落、伸、ん、と、せ、し、れ、
 一、と、源、氏、の、軍、兵、逐、逐、來、る、と、し、討、取、ん、と、表、め、頼、朝、教、経、例、の、勇、と、彰、し、逆、く、り、の、を、
 或、は、抛、捨、或、は、打、捨、て、徐、く、と、頼、朝、林、ま、た、落、り、と、安、田、遠、江、守、義、定、も、老、者、追、逐、て、討、ん、
 と、と、教、経、馬、と、引、返、し、大、力、を、振、て、打、合、し、が、終、小、安、田、の、教、経、小、其、甲、と、ら、ち、破、れ、れ、馬、
 小、た、ま、ら、ず、落、る、所、と、教、経、押、て、その、首、と、把、ん、と、し、その、折、る、と、安、田、が、甥、なる、一、條、次、郎、
 忠、頼、と、い、ふ、の、地、未、だ、と、矢、庭、小、教、経、が、下、散、と、相、と、馬、より、引、却、し、力、を、究、め、て、組、合、さ、り、
 教、経、優、し、き、奉、勤、也、と、要、時、が、頼、朝、の、謀、合、し、が、教、度、の、戦、ひ、小、心、神、勞、ま、し、殊、小、數、箇、所、の、



山崎闇斎の海軍

〇十五

洋軍艦隊



西井備一海軍

洋軍艦隊

屋島の戦ひ
教経討死の圖

極と負てその働き三自在あり。其忠頼小討と。周てその首と深会小傳一
 條次第功と賞と。東鑑及び義経勲功紀小傳。然もこの後小傳。壇の浦
 の戦ひ小教経猶も軍中に在り。然に依孫孫信の。夫小中つて命と預す。か
 が林小討死小教ひあり。この正先儒も猶疑惑せり。本朝通記と按ざる小云。東鑑
 云此役教経戦死故義経載頭疏傳鎌倉以教経者平氏絶倫之雄將
 也平軍拙敗暨兄姪氏族追撃教経之闘死固當焉。東鑑所記非無其故
 矣。然後歳八島之闘。佐藤次信中死教経之夫之事蹟群史載不闕焉。以
 是證之教経不殺一谷明矣。想夫義経權將也源卒嘗恐教経之勇力
 故以似頭號教経詐傳令兵士解惶怖之意者歟。と見え至是此論と
 謂ふ。然もこの義経勲功紀小傳。一の説と載る。能也。教経の務及功が
 林也。甲斐源氏一條の忠頼小討と。然るに彼人勇猛あり。故に怖と味交

憑む今討死と披露其敵の強之味方の弱らん。若し其死と押限して兵勢を催
 すと討死と秘をき。何時まで秘てありん。一時知盛宗盛と孫子の潜小二
 代の教経と構ふ遠い教経が同腹の舎弟。紀小次郎果をと。味方も多く穢
 りあり。その故にその業を幼少の時啞ふ。おひこの扱ひは門限教深く愧紀太
 郎との者。常小末室仕え。其誠信と知る。又の密小居て如此となり。故小女
 小とと託も成長の後法陣と事と八歳の児と託。又の紀太郎領堂。家
 小伴ありて育ける小十一歳にして言語と得る。殊小勇氣も違へけ。其俗小あさ
 で紀小次郎果をと居らせり。然る小容貌兄教経小。一も差ひ言所あり。然
 由今門限教の陳中にあると。人として教経と居らせけると記し。此と
 由あり。氣小使も。疑ふ。例の戲作を拵教経壇の浦の戦ひ盛衰記及び
 平語小。板屋小。向ふ小教。義経の経捷を。猶と小及小。松と踊て

道はとあり。且弓矢の烈しきと東国を双の矢把とせえ。依藤嗣信も能くは
と。この矢先小命と亡る。且討死の期小當つて。安藝右衛門尉と小腰小捷で海小
没る。景をいさう勇ありとも。かゝる別法多く。小虎皮羊質の為べきあり。以素を
実小の勇ありて。この討死あるあつた。新教経小あつた。前小軍功ありて。芳名
も。をきく。彼もべきあつた。そのと討死の証し。うすや

因小の謡曲の屋島小の戦ひ。成さく。紀と教経が。童小兼五といふ
のあり。教経を重とて。侍と難を。脱小嗣信と討ける。後大が義経小も
遇とと得む。弘小兼五も討しければ。その才も自盡と決せしといふ。然るに
兼五といふ童も。新教経の後才小。紀九郎といふ者あり。この時従ひて討死
も。紀九郎兼五音相近し。因て誤まり傳ふるを。ま。戯言小作を殺し
う。いさ。致ふる所みけし。遠く経る。彼るべし

為義 六條判官

義朝 左馬頭

義賢 春宮帯刀

秩父三郎大夫重隆

養子と成

義仲 童名 駒王丸

征夷大將軍

義高 清水冠者

母木曾中三権頭

女

源義仲

人皇十代 後一條帝元暦元年戦死
今安政三辰迄 六百七十年一成

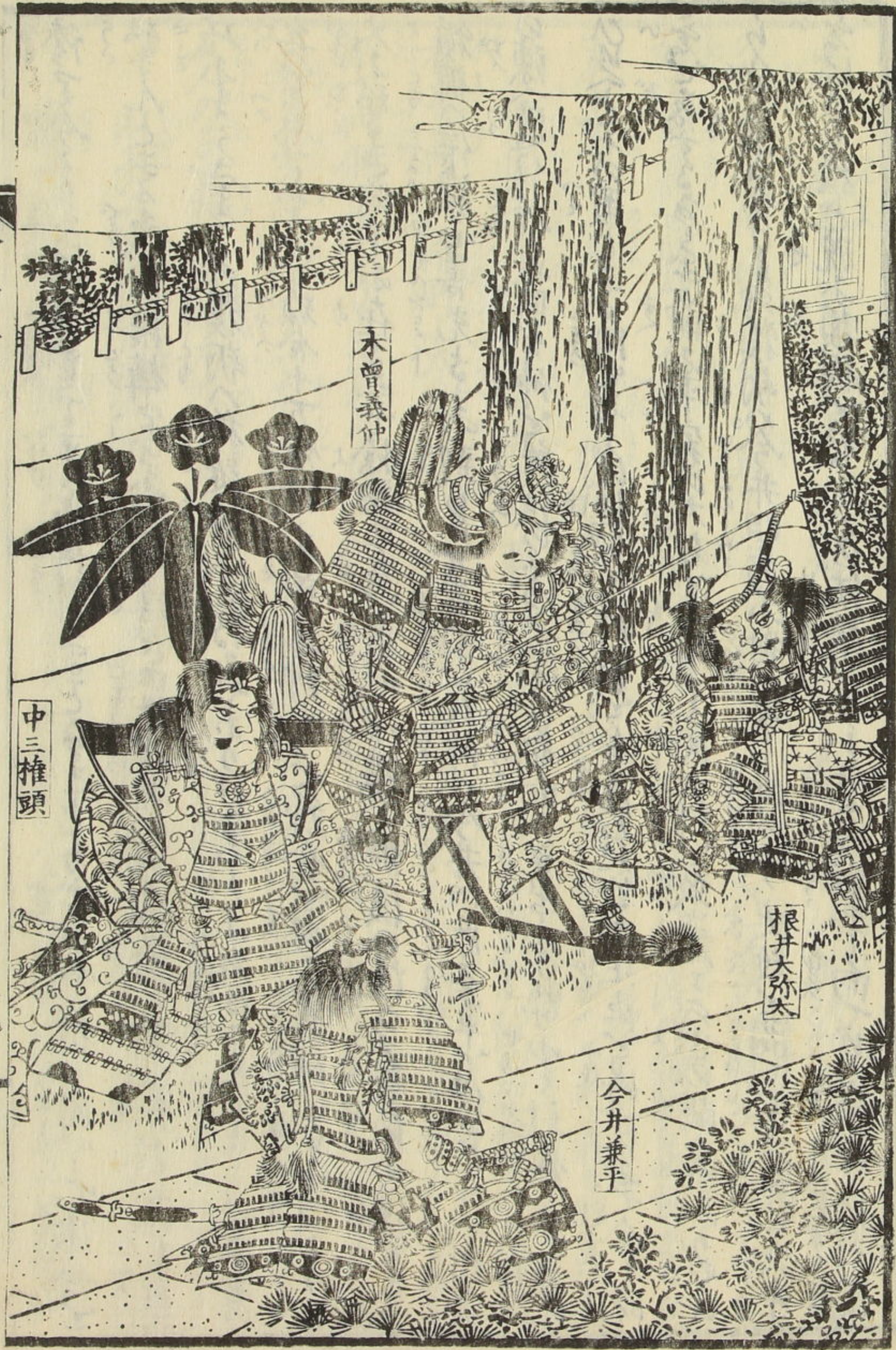
源義仲者起兵信州屢與平軍戰多
利遂經勞北陸而入京師平族西走朝
廷賞之為征夷將軍驕僭之餘攻逐
上皇而後與頼朝兵戰敗死

父義賢武及大藏谷小於。悪源太。平に討る。下義仲之。歳木曾中三権頭
預。国史累平之。小杖ら。本より。深。二十。高。令。得。大。憤
突。之。平。向。新。敬。く。竟。上。洛。七。平。家。と。西。海。へ。逐。源。以。七。の。功。炳。然。之

源義仲の略

義仲小倉に兵多き中、素夫不忠とせえり。今井兼平樋口兼光捕殺忠根并
 行親を以て本曾の四大主とし、また大生坊覺明あり。遠くその以前進士藏人通彦と
 いける人も、文學不通、武備も兼ぬ。因て義仲を愛し、信を離さば、是は丹生
 八幡、捧る願書。この覺明が素文、是古、今、彼、此の名文と名。本朝の願書、その一あり。盛
 衰記及びその餘の書、小澤、さび、あ、累、せり。信、初、の如き文武の才人多く、從ひ、飛、
 と、い、ど、の、ま、ご、時、の、至、ら、ぬ、と、て、本、曾、小、澤、の、あり、ける、が、新、宮、十、條、義、盛、行、高、
 余、宮、の、令、旨、と、持、来、し。如、此、の、よ、う、と、言、ふ、小、澤、に、世、も、異、な、り、領、兼、し。不、目、小、澤、に、
 と、せ、ま、さ、し、が、あ、る、早、く、も、奈、芳、を、宇、治、に、頼、政、に、討、死、し。官、光、明、山、下、に、流、矢、中、
 了、覺、の、小、と、せ、不、及、び、忽、地、を、こ、と、失、ひ、て、時、の、勤、許、と、窺、ひ、る、が、頼、朝、東、兵、旗、を、揚、て、
 頼、朝、府、を、開、く、と、ま、る、由、波、え、け、さ、び、今、の、猶、豫、ま、ま、に、あ、ら、び、と、手、勢、を、引、俱、て、進、出、す、

伐んとし、平家此より、波、成、日、助、長、と、頼、後、守、一、本、曾、進、行、と、命、ぜ、ら、は、助、長、
 累、つ、て、軍、を、整、へ、尻、小、奈、向、ま、る、の、如、路、を、急、病、小、羅、果、一、六、緒、軍、機、と、失、ひ、て、本、國、小、
 飯、是、小、澤、と、才、長、茂、家、を、關、で、頼、後、守、に、任、す。奥、羽、城、に、及、の、兵、四、万、餘、人、と、引、率、
 と、信、及、流、麻、河、の、色、小、奈、向、と、義、仲、依、田、の、城、と、出、長、清、小、對、一、奇、策、と、施、し、一、戰、
 小、こ、こ、と、破、は、長、茂、が、嘉、士、山、野、太、原、宗、丹、房、を、殺、死、し、を、殺、す、小、ら、ち、負、け、さ、長、
 茂、が、軍、大、小、敗、れ、て、遠、く、小、引、飯、と、小、於、て、北、國、小、さ、さ、と、老、な、り、じ、久、義、仲、は、天、皇、
 へ、て、北、陸、の、米、城、と、ま、さ、び、風、小、鹿、を、降、つ、と、籠、く、の、勢、小、奈、上、治、と、平、家、を、退、
 討、せ、ん、と、強、せ、ま、さ、し、ける、が、頃、の、壽、永、二、年、春、と、月、不、慮、の、工、と、を、出、末、不、け、と、是、より、前、
 の、こ、こ、に、甲、斐、孫、氏、小、武、田、五、郎、信、光、と、い、る、人、最、老、の、女、と、お、り、義、仲、が、嫡、子、る、志、
 水、冠、者、義、高、小、妻、合、せ、ん、と、強、せ、ま、さ、し、小、義、仲、曾、て、義、引、を、知、て、信、光、と、愧、め、け、さ、び、
 信、光、大、小、憤、を、頼、朝、小、澤、言、す、ら、う。義、仲、頼、後、の、長、清、小、ら、ち、勝、て、更、不、忍、る、老、と、



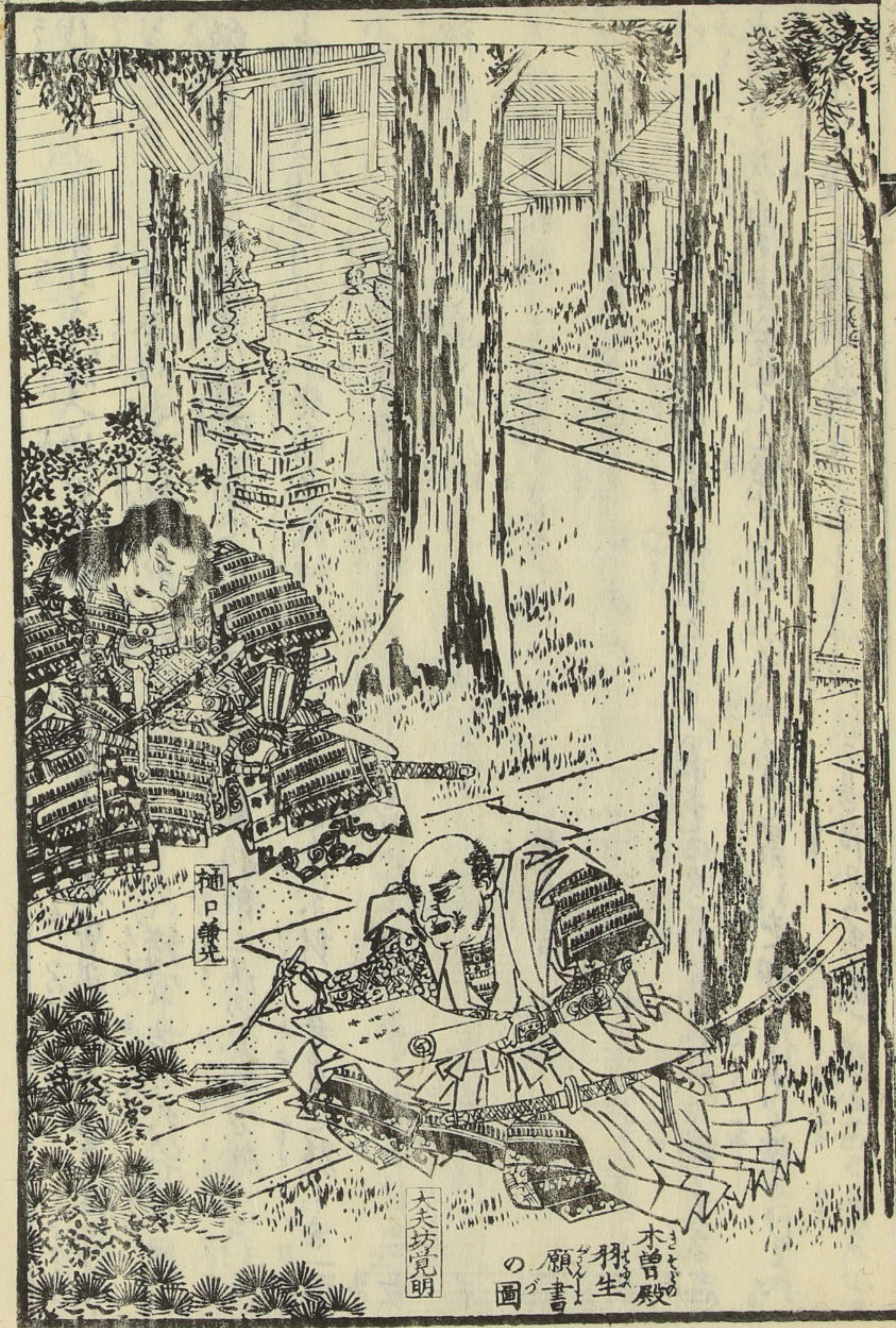
木曾義仲

中三権頭

根井大弥太

今井兼平

〇十九



樋口兼光

大夫坊見明

木曾殿
の願書
の願書

隆王。今より系所へ攻登り。平家退討へさすことども。実ハ平家と同心して。謙念と
 撃んとする。系との結構定まらば。急ぎ四休休あらしむ。胸と盤の患ありんとし。言
 巧小まらさし。公頼朝ハ狐疑深き。大おそありける。やど小忽地とて。実とて。東軍の
 兵。意。その勢。約合十万余。本曾退討して。謙念と奪。義仲とて。受より。由
 大小。さ。誠中。不在。二千餘。誘の兵。卒。信濃。城。後。境。多。能。故。小。陳。と。さ。る。
 頼朝ハ信濃。公。善。先。ま。ま。到。ら。さ。る。ま。下。義。仲。ハ。今。井。四。郎。兼。平。と。使。言。と。て。頼。朝
 の。陳。へ。遣。り。採。違。回。義。仲。と。殊。伐。の。あ。ま。ま。と。一。軍。向。と。兼。平。と。の。勢。少。く。引。退。さ。る。出。逢
 ひ。と。ど。その。罪。と。さ。る。所。と。さ。る。が。但。叙。父。行。家。と。舍。虎。お。た。ら。し。止。車。と。得。さ。る。め。て。全。く。疎
 せ。な。さ。る。さ。る。と。前。小。平。家。の。大。敵。と。置。さ。る。同。士。討。と。致。さ。ん。と。世。の。胡。虜。小。り。や。り
 ら。ん。と。演。さ。せ。け。し。公。頼。朝。ハ。今。井。四。郎。小。對。面。さ。し。仰。の。如。く。大。敵。と。處。て。同。士。軍。廿。八。千
 之。に。あ。ら。ね。ど。脱。小。頼。朝。と。擊。ん。と。の。結構。あり。と。及。び。罷。り。向。て。之。追。つ。け。見。參。致

志。と。返。言。あ。ま。兼。平。ハ。直。不。得。了。之。初。と。ま。う。以。義。仲。再。次。別。人。と。使。と。り。て。作
 の。頼。き。義。仲。一。切。覚。え。さ。し。斯。中。以。と。も。頼。朝。ハ。深。き。小。籠。て。一。通。の。死。請。文。と。奉。ま。さ。る。又
 嫡。子。高。高。と。質。と。て。進。志。し。と。誠。心。見。り。や。さ。れ。け。し。公。頼。朝。ハ。海。の。頼。朝。兼。平。あり。然
 ま。小。高。高。く。宣。ふ。ら。う。ハ。争。頼。朝。兼。平。引。せ。さ。ん。然。ら。ば。家。隸。あ。ん。と。て。義。高。と。違。ふ
 一。と。則。圖。倚。平。四。郎。義。実。天。野。藤。内。遠。景。と。違。は。さ。は。義。仲。一。紙。の。死。請。文。と。認。め。封
 者。義。高。小。海。野。小。太。麻。行。氏。と。外。望。月。源。房。藤。沢。と。麻。呂。三。千。誘。を。かり。さ。し
 副。で。兩。個。の。使。小。り。と。さ。れ。り。且。兩。使。と。答。應。さ。し。馬。と。と。引。せ。さ。る。圖。倚。天。野。其。恩
 と。謝。し。義。高。と。伴。ふ。と。本。陳。へ。取。り。け。し。公。頼。朝。ハ。う。ち。缺。び。封。若。義。高。小。對。面。さ。し。ま。ご
 成人。の子。と。持。給。へ。娘。大。姫。と。二。町。ふ。り。我。子。に。せ。ん。と。相。具。と。謙。念。へ。傳。ふ。ま。り
 周。小。の。頼。朝。言。語。の。如。く。義。高。と。大。姫。若。の。塔。と。て。あ。ま。り。が。義。仲。法。自。手。の
 怒。小。高。高。栗。津。小。戰。死。あり。後。密。小。高。高。と。失。し。と。その。沙。汰。隠。さ。る。り。公。海。野

行氏と語らひて鎌倉の源氏を頼朝とす。堀藤次親家とて義高と逐
む。武藏入向郡。入向川の志不於親家が藤原光澄義高と討て
肩を獲す。頼朝の功を賞せしむ。大姫女を深く歎き。飲食更不咽を透
ら。母政子大歎き。且藤原光澄が義高と戦ふ。士不令と先陣と所
一む大姫病ゆ。驚く。竟不春哀の情不絶。水とめて卒一のふ
かして七年夏五月。平将小松之位惟盛。城前之位通盛。藤原守忠度皇后宮
亮。心安房守清房。河守知教等。その勢十万餘。勢と卒。本曾討つと加能
の境志保。小軍を義仲討て五万餘と卒。祇宗到つてと小對ふ。時火牛
の針策を巡り。具利伽羅谷小逐。平軍死するの七千人。深き谷と埋り。
緒乃身と以てと免る。加能五條系小陳也。義仲勝小卒とと逐ふ。長井翁
藤原實盛。殿野五條。景久戦死。緒乃敗して系小降。と小於て義仲ハ親

五万餘と卒。以勝小卒と上洛。比叡山小登。と洛中。虎視平家大不忠と
做。天皇及び建禮門院二位尼と携えて西及小走。法皇ハ叡山小幸。以抄
及基通とと姉と。左大臣隆宗。右大臣兼実。その餘の公卿。供奉以義仲件
の兵と卒。法皇と供奉して洛小入。法皇その功を賞し。以義仲不伴。諸国
と賜。仁美大將軍とす。行家ハ備前と賜。以て後前守とす。是より
按。仁美大將軍。仁美大將軍に任ぜらる。國史略。平頼朝死。由小壽永二年秋八月。或ハ七月と
を。武藏入向郡。入向川の志不於親家が藤原光澄義高と戦ふ。士不令と先陣と所
一む大姫病ゆ。驚く。竟不春哀の情不絶。水とめて卒一のふ
かして七年夏五月。平将小松之位惟盛。城前之位通盛。藤原守忠度皇后宮
亮。心安房守清房。河守知教等。その勢十万餘。勢と卒。本曾討つと加能
の境志保。小軍を義仲討て五万餘と卒。祇宗到つてと小對ふ。時火牛
の針策を巡り。具利伽羅谷小逐。平軍死するの七千人。深き谷と埋り。
緒乃身と以てと免る。加能五條系小陳也。義仲勝小卒とと逐ふ。長井翁
藤原實盛。殿野五條。景久戦死。緒乃敗して系小降。と小於て義仲ハ親

安堵せり。然るに備前使中の源氏等、救くより、咄えけし。能くも、教諭せし。順
 たる者、討平らり。因て中国の支平、平家小麻呂、藤原小麻呂、藤原小麻呂、
 責責を先途の恥辱と爲り、準備あり。法皇、義仲と行家とを
 て、早く征伐せし。作合らば、けるに、義仲、兼光、箇計の故、自、判す。ま、も、い、
 と、夫、田、判、官、兼、清、宇、野、平、四、郎、行、成、と、大、將、と、て、五、千、余、騎、の、軍、兵、を、授、け、
 の、至、と、出、立、せ、然、に、亦、備、中、水、島、小、將、平、軍、と、夫、小、戦、り、ける。教、諭、が、勇、威、
 盛、り、て、夫、田、兼、清、討、ま、け、し。平、軍、大、小、復、損、せ、義、仲、攻、て、安、ら、る。毛、自、平、修、治、と、
 率、て、備、中、へ、奉、向、せ、る。時、行家、の、花、洛、小、將、を、隨、つ、深、謀、の、企、あり。木、曾、連、行、
 精、て、後、を、發、し、と、り、け、し。今、井、兼、平、と、と、安、早、馬、と、と、て、あ、る。と、義、仲、小、將、
 ち、と、小、義、仲、使、の、大、車、と、當、る。故、と、し、む、と、て、都、へ、と、引、返、せ、行家、初、と、使、り、
 也、行家、律、素、に、於、て、い、ま、う、小、教、諭、難、し。途、引、違、て、備、中、へ、飛、え、平、家、と、伐、て、義、

仲の怒り、あつむ。使、せ、んと、急、ぎ、花、洛、と、う、ち、あ、り、て、丹、波、路、小、將、も、播、磨、国、へ、出、ける。小、折、
 平、家、も、同、心、を、示、し、山、小、在、ける。と、義、仲、と、列、以、一、陳、の、赤、澤、之、部、左、三、門、尉、兼、修、二、
 陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三、陳、の、上、三、部、兵、衛、尉、兼、修、四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 二十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、二十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、二十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 二十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、二十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、二十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 二十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、二十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、二十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 二十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 三十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 三十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 三十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、三十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 四十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 四十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 四十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、四十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 五十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、五十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、五十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 五十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、五十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、五十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 五十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、五十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、五十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 五十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 六十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 六十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 六十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、六十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 七十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 七十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 七十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、七十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 八十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、八十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、八十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 八十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、八十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、八十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 八十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、八十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、八十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 八十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十一、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 九十二、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十三、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十四、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 九十五、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十六、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十七、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、
 九十八、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、九十九、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、百、陳、の、中、二、部、兵、衛、尉、兼、修、

平氏とて。更小拒者もるけきと。我仲退討去き由。院宣と錫り。と定小破て大不怒
 我本國と出てより。弓箭甲冑と枕と。更小寝食と安んぜむ。是偏小何の為ぞ。思運
 る平氏と亡し。上の宿禰と休め奉る。下の弟民と救小あり。然るに何の罪あり。あつて退討の
 宣旨と行家小賜る。かゝる及復表裏の君然あり。此方小も。給方ありと。思言て
 富家の賊室と様と。或ひの賓客ある家小押入。その珍膳美味と奪ひ。或ひの加兵八
 幡石清水祇園北野の神領。不忌憚ら。び青田と新て馬の飼料小も。けける。あそ
 中不先渡る。軍兵等。いそと。視て。いと面白き。小思ひ。或ひ眉目よき。婢女と奪ひ。或ひ
 主人と逐出。て己が居所と。あそ。あんと。復籍言。語小絶。と。法皇是と。言。及
 及判官。知康と。勅使小。是ら。是。礼妨と。後。む。き。今下さる。本曾。勅使小。あ。對ひ
 その勅。答。為。由。せ。尺。是。下。八。船。の。判。官。と。い。ひ。難。さ。鳥。解。の。考。定。め。て。万。人。小。打。と。う
 う。致。さ。う。う。と。嘲。つ。ま。を。終。り。と。し。法。小。退。ま。知。康。二。言。と。も。ゆ。び。引。返。し。平。氏。小。信

さら悪流あり。早く殊代と加む。天下の天車と更出。やま。と。奏。け。け。法。皇。大
 小。孩。さ。の。ひ。則。知。康。と。大。お。と。一。終。生。の。勢。と。振。つ。ま。暇。ま。あ。ま。ま。不。厭。心。と。始。め。二。井
 古の悪流。じも。と。と。ま。し。ける。洛中。に。ある。軍。兵。等。由。義。仲。院。の。出。立。と。ま。ま。と。け。り。と。破
 及。び。本。曾。小。叛。ま。る。官。軍。小。加。る。者。も。少。う。と。ま。然。る。に。官。軍。忽。地。小。二。万。人。計。と。ま。る。ね
 今。井。兼。平。等。と。破。取。の。外。あ。る。と。と。孩。さ。と。ま。て。義。仲。小。對。ひ。ら。と。依。せ。地。と。脱。全。く
 野。心。と。存。せ。ね。有。四。代。あ。つ。て。然。る。に。ま。ま。く。い。ま。家。の。滅。亡。と。り。と。理。と。ま。と。練。し。う。と
 義。仲。更。小。義。引。せ。と。我。北。陸。小。兵。と。奉。て。未。一。回。不。覺。と。ま。と。と。院。小。も。あ。ま。ま。主。不。由
 あり。地。と。脱。と。あ。る。と。ま。や。その。家。あ。ま。ま。此。方。より。運。寄。し。て。必。ひ。知。せ。未。せ。ん。と。憤。り。諸
 軍。勢。と。怒。る。兼。平。大。小。果。も。恐。ひ。遠。に。狂。氣。の。出。舉。勅。曲。と。止。ま。る。と。一。再。二。再。四。練
 て。由。致。て。破。入。る。風。情。中。あ。る。と。ま。と。時。の。間。小。進。發。し。て。法。住。寺。殿。院。の。向。ひ。け。ま。ま。ま。破
 判。官。知。康。の。流。米。池。小。登。て。諸。軍。と。格。揮。ま。然。る。に。由。漢。士。元。來。軍。旅。の。と。小。跡。く。散

言部傳二六言部傳二六

群玉堂藏本

と上より小おとて。法皇自來愛一の儀の事乃及ぶるま軍大將とのありのり。築地
を東西小池まのり。左のふ少戦と突き右の金剛の鈴と振つてうまややふの滝の水は
の滝の水は流ひ舞ふはとる人判官の天狗などの所為さうんと呆とぬるあり。于時
義仲軍兵七隊小別へ進み近き判官斬と射て落せ。指揮小軍兵弓法は一
營小夫と放て。知康懼とて遠く小築地と飛下し逃去り。若下後仲下知と傳え四方
八面より火と懸す。折しも烈しき。風小火焔十方飛散て黒烟天と息と。法皇聲
小召火と避り。木曾重奉とて六條の内裏へ押込奉は比叡山の貴王明雲僧心
二并寺の長吏八条宮圓慶法親王も夫小中とて失のふかて義仲今般の一奉公
卿教上人のち。法皇と初め奉り。小園でたり。と三條中納言朝方と始文官武官
總士の守代四十九人の官職と割ぐ。小松殿の義仲にたりて泰とありけ。是後仲
か方小来ら。是凡人はとて朝家と我侍小。殊小若と押込奉。或ハ高佐の官の

人と解官停任せしむる。次の外さ。傳車也。天照太神正八幡もさ。其の怒りあり。め
然る則ハ出車が身小。その罪報つてそのあ。近頃平家朝憲と。我侍求道。行ひ
とま。祝小孫沈淪。是より。鑑史の。名類。法皇の。奉。解官の人と。个
官不復。夫の道と行ひ。行末自。と。細く異身。と。けれ。海長
仲も然。法皇五條の内程より。奉。大膳大夫。業忠。六條西洞院の。身小
即。解官の人。由。本官不復。奉。安堵の。思。か。其奉
も。奉。小。改。元。暦。の。月。頼朝。鎌倉。在。其。中。蒲。戸
者。範。頼。九。郎。義。経。と。二。大。将。と。て。兵。と。授。け。木。曾。が。復。頼。と。鑑。人。為。と。落。り。し。う
破。え。け。は。小。後。仲。大。小。後。と。是。と。防。ぐ。便。秘。と。は。然。る。に。備。前。守。行。家。の。河。内。小。在。て。近
心。と。企。つ。る。よ。破。え。は。是。と。追。討。せ。し。為。小。百。餘。騎。と。引。領。々。植。田。兼。光。と。將。と。し。河。内。金。へ
向。い。たる。小。保。念。の。二。大。將。尾。張。の。勢。田。より。相。別。と。宇。治。勢。田。と。押。寄。る。蒲。戸。守。老。範

言部傳二六言部傳二六

〇共四

群玉堂藏本

頼の武田加美一條板垣千桑和田河被福毛と始り里見大田小吉を率ゑて其の勢を合し
 万五千騎。道江の勢田小吉に對し。源九郎義経の安田大内自山土肥佐々木主左衛門淡谷
 曾我孫と始り。伴勢三郎下宗流の弟從武能辨慶と其勢合して三万五千騎
 伴勢路と經て宇治へかゝる。木曾義仲は今井根井と先鋒。二の勢田の橋へ引落し。旗を
 捲て敵の侯の那和を崩し。淡小百騎斗りと相闘て院中守儀を討つ。萬一軍は利
 を失ふ。院と取奉ると西土所幸。一よりせんと撞えり。義経宇治川小屯とのそこの
 河に渡んとす。より小吉の佐々木四郎高綱梶原景時を果す。兩人共射て渡り。味方ハ
 是れ不戦の脅き。繞てて渡り。義仲の勢と先途と命と捨て防げども。鎌倉の軍勢
 勇威烈を。固より免。寒伴あはれ義仲討ち負て。憑切つ。兵も討ち。落て。栗津
 のを。不到。今井兼平。行過。自盡。決。由。新。小。義。仲。深。田。小。馬。と。案。の。是。打。ど。も。あ。り。と
 ども馬進まば石田為久が遠矢中。是。竟。小。栗。津。小。令。と。隱。入。兼。平。も。快。く。主。小。自。害。滅

させんと思ひし所小吉止し。敵と防ぎて戦ひけし。今。い。ち。心。神。旁。も。獲。小。う。矢。暮。毛
 の如く。教。筒。所。の。麻。と。三。負。け。し。是。ま。な。り。と。鞍。壺。小。倒。を。あ。る。ま。今。井。四。郎。兼。平
 が討死する。同。東。の。若。刀。林。們。と。視。て。法。則。小。せ。也。と。太。刀。の。鋒。と。小。衛。馬。より。美
 倒に飛下りて。礼。軍。の。中。に。死。る。天。勝。る。別。の。者。と。感。せ。ぬ。の。い。ち。り。と。ぞ

周小の木曾中三権守兼遠が女児小巴といふ。容貌殊小。藤川く。心。別。身。婦
 女なり。義。仲。が。妻。と。り。て。每。度。軍。陳。小。從。ひ。勇。威。と。頭。主。と。屬。なり。其。時。由。陳。小
 在。て。例。の。如。く。物。の。具。は。群。が。敵。陳。へ。刺。て。入。る。ま。と。僥。倖。難。を。欣。て。敵。殺。多。切
 て。落。毛。内。田。之。弟。と。り。て。討。と。んと。馬。と。進。め。竟。小。巴。と。引。組。り。巴。は。雙
 の。勇。力。を。ま。し。雅。に。内。田。と。取。て。押。首。と。控。て。息。切。く。其。時。和。田。小。吉。弟。義。登。喜。地
 小。就。来。り。渡。り。合。て。戦。ひ。が。巴。ハ。教。筒。度。の。戦。ひ。小。腕。池。之。精。神。旁。也。殊。小。味。方。も。夜
 小。敗。を。する。に。氣。後。ま。り。て。終。小。義。登。小。生。捕。軍。散。と。後。義。登。ハ。鎌。倉。敵。小。す。と

二、とりのあやとつま さるるえり 義秀と産一なり 或いは二麻義秀の養子にありては
 精て巴宿の妻とありて二男義秀と産一なり 巴懐妊し、義秀の妻と色をばらばら
 子ありといひ あま 和田合戦の後猶存在せり あり 元不たりて在といふ あり 本朝列女傳と按 あり
 云、巴者中山権守之女也美而豔也又善攻撃殺伐之事能彎硬弓 トモエハ、チウサンゴンカミノ、ムスブナリ、ヒシテ、マタ、ヨクシカウケキツツ、コトヲ、ヨク、ヒキカウキウラ
 能駕馭馬之奮逸踴躍而難輒制者云、巴從義仲于軍義仲謂巴曰 ヨク、ガキヨス、ウノ、フンイツテイケツシテ、ガタキ、タヤクセシモ、トモエシカラ、ヨシカニ、クニ、ヨシカニ、イツテ、トモエシ
 今日我將戰死矣汝可速去也巴欲借死而不肯公義仲曰我死後人必議 ケフ、ワレ、マニ、セン、シセト、ナチ、ベシ、ス、ミ、カ、サレ、ト、モエ、ホツ、ト、モ、シ、セ、ト、ズ、ア、テ、サ、ラ、ヨシ、ナ、カ、イ、ク、シ、フ、ヒ、ト、カ、ニ、ス、キ、シ、テ
 曰義仲携女于陳中非將帥之為也而令強去時武州人御田八郎師重率 イ、ン、ヨシ、ナ、カ、ツ、サ、ネ、ゴ、ヲ、ヂ、チ、ウ、ニ、ア、ラ、ス、シ、ヤ、ウ、ス、ヲ、ノ、ワ、ザ、ニ、シ、ム、シ、ヒ、サ、フ、ト、キ、ニ、フ、シ、ラ、ン、ヒ、ト、ニ、タ、ノ、モ、ロ、シ、ゲ、ト、シ、テ
 三十騎許兵挺身來師重斃力過人勇銳又聞于世巴靚面捉師重不使 キ、カ、リ、ク、ヘ、イ、ラ、チ、シ、ニ、マ、ル、モ、シ、ゲ、リ、ヨ、リ、ラ、ス、ク、ヒ、ト、ニ、ユ、ウ、セ、イ、マ、タ、キ、コ、ヲ、ヨ、シ、ト、モ、エ、テ、キ、メ、シ、ト、ス、モ、ロ、シ、ゲ、ヲ、マ、シ、メ
 此動截棄之自後脫甲申脫去干戈止之日賴朝召巴命木林五郎繫于獄 ネ、モ、ウ、カ、キ、リ、ス、ツ、コ、ラ、ソ、ン、チ、ヌ、キ、カ、ツ、チ、ウ、ツ、ガ、レ、サ、ル、カ、ン、ク、ワ、ム、ノ、ヒ、ヨ、リ、ト、モ、エ、ト、モ、エ、テ、キ、ン、ゴ、ラ、ウ、ツ、カ、ゴ、ク
 舍於是和田義盛強乞巴命賴朝許之遂為己妾云 シ、ヤ、ニ、オ、イ、テ、コ、ニ、ワ、ダ、ヨ、シ、モ、リ、シ、ヒ、テ、ト、モ、カ、イ、チ、ヲ、ヨ、リ、ト、モ、エ、ス、コ、ラ、ニ、オ、レ、ガ、セ、ト、以上、か、ま、せ、不、傳、ふ、所
 と大不異之 お、お、と、 義盛の實子といふ い、う、と、 頼朝の領曰 い、う、と、 說聞巴女有石龍風當時 ア、リ、キ、リ、ウ、ク、フ、ク、マ、ウ、ジ、ノ
 豪婦 ガ、ウ、フ、 女中英雄 メ、ヨ、チ、ウ、エ、ト、ウ、 得和田籠 ニ、ラ、ワ、ダ、チ、ヨ、ウ、ラ、 不令首蓬 シ、ホ、ウ、ラ、 可敗再醮 シ、オ、ト、ス、ヌ、ヒ、ヤ、ウ、ク、ラ、 唯褒戰功 シ、ホ、ム、セ、ン、コ、ウ、 といふなり

為義 六條判官

義朝 左馬頭

義平 惡原太

朝長 中宮大夫進

頼朝 右大將

頼家 左内督

實朝 右大臣

日三代將軍

源頼朝

人皇十三代土御門院正治元年正月薨
今安政三辰追 六百五十八年、成

源頼朝者幼嘗險艱一旦崛起東州奉

後白河上皇旨乃遣軍卒踏義仲穢平家

且自征東奥殞秦衡首上皇大嘉之以

為六十餘州總追捕使呼武人管領桑

域昉於此

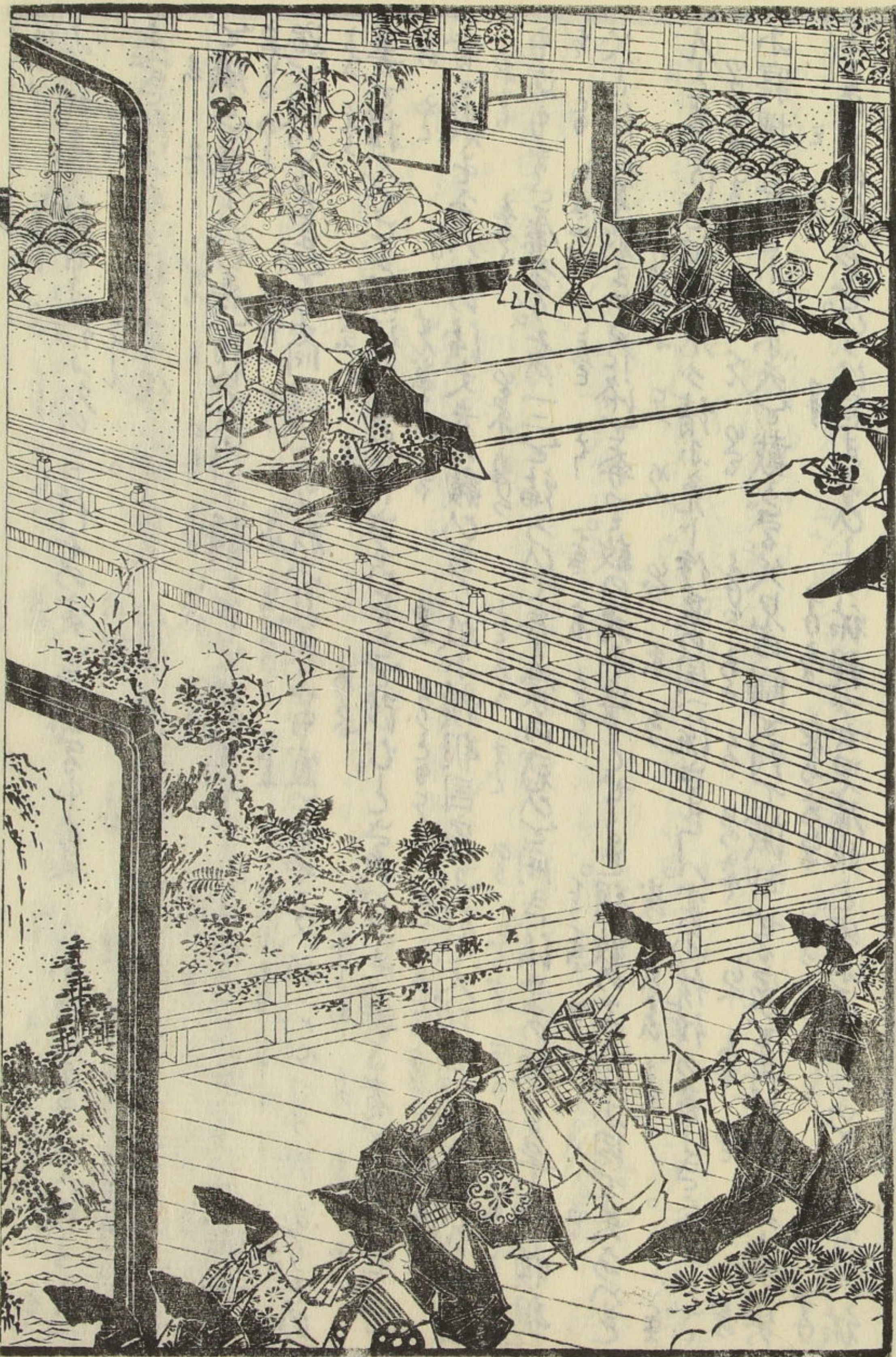
頼朝、幼少、天下の亂、徳を武將の棟梁と作、自ら、今、不、承、継、き、と、思、ひ、也、
孤、敏、深、く、信、頼、自ら、枝、葉、と、裁、け、り、二、代、不、及、び、子、遺、さ、し、呼、情、各、歎、ま、さ、き、哉、

百廿傳一史言卷之六

源賴朝の伝

或人頼朝と評しての事。漢の言祖と類き似たり。と以て多分沛公の布衣より紀つて
 天下と掌握し。漢朝四百餘年の基と用けり。頼朝伊豆の小島より紀つて平家の強暴
 一時小嶽。覇府と豫念不用して日本總追捕使とあり。天下兵馬の權と領も古へ
 崇神の御時より將軍の号ありといへども。是より熾るるあり。以て末武家相兼して長
 くその有とたり。にけり。然れどもその女と殺し。まことの牙と殺す。その任の古頼朝小惑ふ
 てあり。あつては。まことと智者といへんや。男に限るる高運なり。あつては車蹟と記さる
 りの平語盛衰記のいふ由更あり。その野史小説の筆で教へたりといへども。その出所俗
 説とて定らるる。あつては。東鑑の善本とて。その証といふべきなり。
 附ては頼朝怪が小島不在せし。とて文覚密小院宣と請て。まこと頼朝小共
 えたり。是より頼朝志と圓う。北條時政と始め頼朝黨と。郎從と聚めて

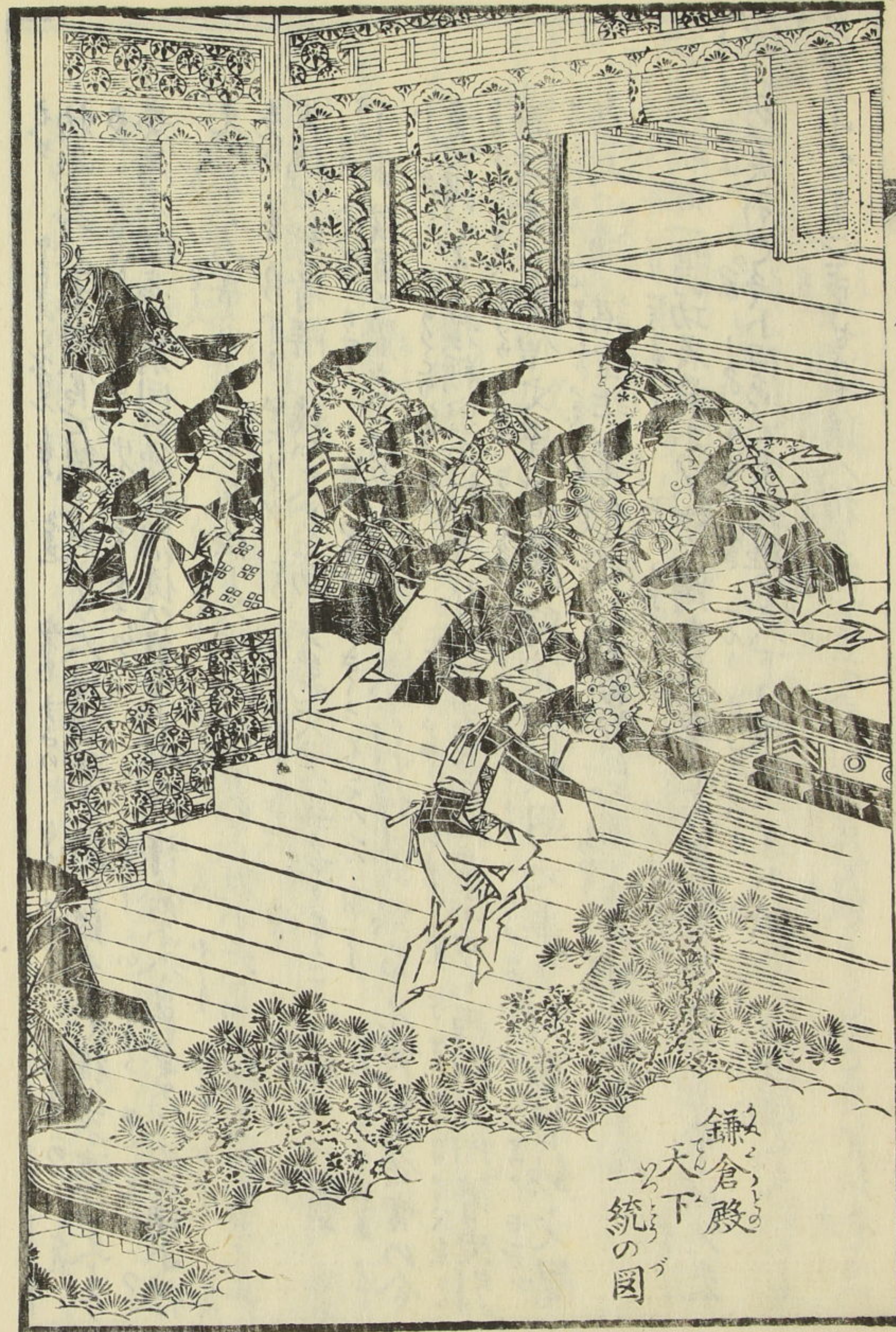
初小。まこと木判官と録し。夫より大庭侯爵と戦ひ敗れ。て梶木宗道は史より
 安房小航。東國の源氏附従ひ。我らども多し。豫念不入。是等へ人のに頼小傳
 えて牛らの音由り。知るる。但一文章が院宣のて。脱小矢島小院宣地。其
 實偽と知者解く。偏小文章功とある。文章義兵と奉り。勅め。ハ勅め。ある
 下。渠院宣と齋ま。より更一時の計策。將傳團の謀あり。實ハ高倉宮の令
 旨と得て。頼朝密小針つ。なり。国史界の細書小云く。西山公所著史引
 證諸書不取。僧文覺潛齋。院宣與頼朝之事。又引愚管鈔。文覺
 察人心矯。詔旨非實有之。とて。あかき。普通通の鏡ハ非るらん
 さて頼朝卿一世の功名。前小の如く。諸書小あり。今更贅言。まこと。あつては。元來
 流囚の一夫。して。終小四海と掌に握る。天下の權勢。一才小飯。を夫の洪福。といふ。まこと
 不賢。あつては。まこと。見せんや。後人種と。説とて。或ハ殘忍と。殘ること。まこと。まこと。是れ



百得博一子古卷之六

〇光八

祥玉堂藏板



百得博一子古卷之六

鎌倉殿
天下
一の
統の
園

君玉堂藏板

上の於て後世小傳の如の言行その実と得ざるもあらず。右小由左中右人のよく及ぶべき所小由の後、尊信と可あり。但右の史と續りの具眼と必て其人の善惡邪正と識と要とし、善と記して内小顧と是と祖傳せんとて思ひ悪と記して内小顧と其過と改むる。是とて學問の功との脱小孔夫子の宜むや。又行へ必らず所あり。その善と擇んでこそ小従ひその善と改む。とされば只管興る者と優て亡ぶる者と駁するあり。かの漢丈夫の類ひあり。故小頼朝國家小於て大功を双の良なる事と也。道中もよき事あり。右一二と編らひて。音聲の惑ひと聞き後學の任と事。折頼朝父と俱小軍敗して花洛と奔る。敵の為小虜とせしむ。朝敵の子ある小同て失あるはとんととる。して池禪尼が請小免。作良の國へ流さる。實小流傳の甚しき事と苦小寢塊と枕と。俱小天と戴さる。父兄の讎と對て滅却せる。家と再び興まき。實小その身の任ある。いに忘さる。ひう。祐親が女兒辰始と密小通して子とてさる。存に祐

親系より傳り来り。平家の聽と憚とて。孩兒と殺し頼朝と申。國らんと做しける。と伝東祐清憐こら。頼朝小告て奪らせり。夫より頼朝北條小到。かの家小客と。時も又其女兒政子と通む。時政是と知る。いども思ふ有あま。ば取て殺せ。因て志とゆるの。後政子小御臺とあるとと得。頼朝祐親と惡の條捕て是と禁獄し。祐清と愛せし。祐清辨とせしむ。吾父罪と君小獲て擒小就の如争う。ふと賜と受んと固く辨と徒。比壽永元年二月小至。二浦を陰縁者言に。祐親が命とを頼朝に怒解て是と宥んとありける。祐親はてそのむ。我君と誓とせり。今恩とて。と。其行と愧と。終小自殺と失に。頼朝再び其子。九郎祐清小報謝せん。依清肯て兼引と。父祝小自盡せり。何の面目あつて世小多。不や。遂小裁り。又と頼に請て。其。是。罪。あり。と。謀す。とい。世。人。是。何。と。評。と。と。主。試。小。是。と。論。せ。ら。御小。小。然。り。と。い。ども。天下。國家。と。治。る。人。宜。く。初。の。如。く。さ。る。は。一。の。不。義。と。行。ひ。一。の。

不幸と歎まふ天小と傳ふとも為はくは千古不易の誓言を祐親已不雙言と云ふ事あり。其本と推し免れ累代平氏の家人とて源家の流人女児と婦し子と産むに至り及んで争ひのまにあらざるは備是と申恩と云ふは頼朝小と云ふ人ありは君不貳心あり。軒長と時政とまは平氏の内舊婚の縁ありといふ事也。頼朝は平氏方の女と誓ひ頼朝は平氏方の女と誓ひ。其時平相国小房あり其女と必て頼朝小聴も其表裏及還復する評と候むと明の宜あるは後幸小至小家の権と奪ん為君といひ且外縁あり。頼朝はと修禪より我れと時がふと假て実朝と我れ。天下と篡奪するに至り。頼朝はと家せばと其忠不忠と堅ま。己不雙言する者て殊に名義明といふと又後継と選討も。と実小嫌疑の所為るは義経西及小大功と顯り。自ら終つて諸士と種ん。是迄ありといふ也。まは君幸の勇將ありまは箇計の失ありと名頼朝とまは傳え候は或は千葉二浦の如き存而功の是とて。その迄と練する。然るは自ら教誡の書と

後つとまは其業の義経元末利発あり。其七改めまは君頼朝小及及びと只管任者の初と信。その大功と空をうて鎌倉中へ入らまは腰紙を逐かへ。法皇功と賞し。内小昇殿と聽さ。まは左衛門尉小任するに及び兄と閑て私とと大不怒。まは是と責め土佐坊昌俊とて夜討せむ。義経脱小間者といふは鎌倉の動靜と知まは昌俊と館小指さ。詰問とて死請と書り。懈多如くは夜討と訪ぐ。准依とあるは土佐坊曾てとと知るまは。欺き課し。と心小勇とて堀川あり。義経の第へ押寄るに兼て准依のまは。まは義経此中該と辨慶以下の勇卒とと勿地にお撰。まは終に土佐坊と殊し。相頼とて大不飲ひ。我使と殊し。まは義経と伐小名あり。と夫より諸士の物と集。自ら軍小召とて鎌倉と進軍せむ。義経花洛と落し。と候て。黄瀬川より引返。梶原景時と花洛小遣し。義経行家と餘黨と殊ま。まはより高。義経は急に迫るとは方あり。直小朝教ふる。と心と推て頼朝退討の院宣と請

稟^{ひら}上^へて天運^{てんうん}脱^{だつ}小^{せう}備^びに^おり志^しと果^{くわ}以^も小^{せう}より^も悪^{あく}風^{ふう}の^た為^{ため}不^ふ和^わと破^{やぶ}れ^ば是^{こゝ}号^{ごう}非^ひあり
 芳^{よし}野^の小^{せう}隠^{いん}と忍^{しの}び主^{しゆ}従^{じゆ}山^{さん}依^いの^た姿^{すがた}とあり^て奥^{おく}及^{およ}下^げ向^{むか}秀^{しゆ}備^びと特^{とく}て^は不^ふ安^{あん}諸^{しよ}を
 秀^{しゆ}備^び乃^{すなは}て秀^{しゆ}高^{かう}好^{こう}と志^しと高^{かう}敏^{びん}小^{せう}弟^{てい}と管^{くわん}王^{わう}君^{きん}の^た如^{ごと}く教^{きやう}ひ冊^{さつ}く^かて文^{ぶん}治^ち之^し年^{ねん}
 四^よ月^{げつ}奥^{おく}及^{およ}征^{せい}伐^{ばつ}の^た備^びあり^て兄^{あに}小^{せう}八^{はち}脱^{だつ}小^{せう}白^{はく}川^{せん}小^{せう}進^{しん}三^{さん}德^{とく}大^{だい}乃^{すなは}て相^{さう}朝^{てう}八^{はち}宇^う都^との^た官^{くわん}進^{しん}
 出^{しゅつ}張^{ちやう}あり^て先^{せん}鋒^{ほう}高^{かう}山^{さん}乃^{すなは}て重^{じゆう}忠^{ちゆう}思^しの^た外^{がい}小^{せう}敗^{ばい}を^たす^て相^{さう}朝^{てう}熟^{じゆく}思^し維^いを^た勝^{かち}つ^てとる^こと
 奈^なして今^{いま}四^よの^た殊^{しゆ}伐^{ばつ}と止^{とど}めり^て同^{どう}四^よ年^{ねん}秀^{しゆ}備^び卒^{そつ}し^て子^こ恭^{きやう}衛^{ゑい}と始^{はじめ}め^て修^{しゆ}の^た子^こ息^{しき}に^お類^る
 以^も遺^い云^いあり^て然^{しか}らば後^ご経^{けい}と行^いき^{やう}。宣^{せん}旨^しと下^げさ^し相^{さう}朝^{てう}乃^{すなは}て由^{よし}教^{きやう}書^{しよ}と編^{へん}り^けま^は
 恭^{きやう}衛^{ゑい}父^ふの^た遺^い令^{れい}に^お肖^{せう}き^き才^{さい}忠^{ちゆう}湯^{たう}乃^{すなは}て同^{どう}志^しを^た懐^{くわい}る^こと長^{ちやう}と殊^{しゆ}と後^ご経^{けい}と行^いき^{やう}を
 謙^{けん}余^よへ送^おつ^てり^かて後^ご文^{ぶん}治^ちの^た年^{ねん}恭^{きやう}衛^{ゑい}の^た從^{じゆう}類^る後^ご経^{けい}と隱^{いん}養^{やう}一^{いつ}言^{げん}之^し責^{せき}て送^おつ^てせん
 と後^ごせ^られ^ばその^たう^に奏^{そう}使^しと經^{けい}り^まけ^るに^お苟^{なほ}く^も伊^い達^{だつ}恭^{きやう}衛^{ゑい}。宣^{せん}旨^しと重^{じゆう}下^げ所^{しよ}教^{きやう}也^{なり}
 と畏^{おそ}む^こ異^い多^たる^こ後^ご経^{けい}と行^いき^{やう}る^こ条^{じょう}神^{しん}妙^{めう}の^た舉^{きよ}初^{しよ}之^したと^は是^{こゝ}是^{こゝ}也^{なり}後^ご経^{けい}と隱^{いん}養^{やう}ふ^た科^かを

あり^ての^た是^{こゝ}也^{なり}且^{かつ}く^も宥^{ゆう}めり^て然^{しか}る^ことと^は九^く卿^{きやう}評^{へい}一^{いつ}決^{けつ}と恭^{きやう}衛^{ゑい}と送^おつ^ての^た宣^{せん}旨^しと
 楊^{やう}以^も然^{しか}る^こと中^{ちゆう}諸^{しよ}兵^{へい}孫^{そん}余^よ中^{ちゆう}に^お先^{せん}満^{まん}て其^{その}費^ひ也^{なり}あり^ては^は何^{なに}の^た甘^{かん}んと高^{かう}孫^{そん}也^{なり}
 る^こに大^{だい}庭^{てい}平^{へい}と果^{くわ}能^{のう}の^た老^{らう}武^ぶの^た故^こ実^{じつ}小^{せう}精^{しやう}一^{いつ}進^{しん}と^は言^{げん}ま^はり^て恭^{きやう}衛^{ゑい}の^た世^{せい}源^{げん}家^かの^た長^{ちやう}
 あり^て夫^{その}君^{きん}と^はは^はと^は宣^{せん}旨^しと中^{ちゆう}諸^{しよ}兵^{へい}と^は何^{なに}の^た妨^{ぼう}あり^て早^{そう}と進^{しん}を^ため^めり^てと^はい^ふ
 小^{せう}圖^とて^は其^{その}後^ご小^{せう}同^{どう}と文^{ぶん}治^ち五^ご年^{ねん}七^{しち}月^{げつ}十九^{じゅうきゅう}日^{にち}相^{さう}朝^{てう}孫^{そん}余^よと^は其^{その}の^た奥^{おく}及^{およ}征^{せい}伐^{ばつ}せ^られ^ばけ^る
 に^お同^{どう}九^く月^{げつ}上^{じやう}旬^{じゆん}に^おて^は教^{きやう}乃^{すなは}て恭^{きやう}衛^{ゑい}乃^{すなは}て人^{にん}河^か田^{でん}決^{けつ}舟^{しゆ}に^お欺^{かた}る^ことと^は生^{せい}害^{がい}と^はけ^られ^ば河^か田^{でん}
 と^は其^{その}首^{くび}と^は相^{さう}朝^{てう}乃^{すなは}て相^{さう}朝^{てう}の^た陣^{ちん}へ^お来^きり^て割^{わり}高^{かう}山^{さん}と^は其^{その}首^{くび}と^は実^{じつ}檢^{けん}あり^て奥^{おく}羽^う悉^{しつ}く^も定^{じやう}ま^はり^て
 と^は其^{その}首^{くび}と^は其^{その}の^た所^{しよ}業^{げつ}と^は思^しひ^て其^{その}の^た後^ごと^は信^{しん}と^は後^ご経^{けい}と^は信^{しん}と^は其^{その}の^た由^{よし}元^{げん}未^み抑^{おさ}め^られ^ばか^く
 て^は後^ご経^{けい}力^{りき}竭^{げつ}き^て奥^{おく}及^{およ}小^{せう}隠^{いん}と^は行^いき^{やう}と^は行^いき^{やう}と^は秀^{しゆ}備^びに^お對^{たい}せ^られ^ばと^は命^{めい}と^は今^{いま}と^は秀^{しゆ}備^び
 義^ぎと^はり^てと^は不^ふ願^{げん}せ^られ^ば且^{かつ}横^{やう}を^た宇^う都^と官^{くわん}と^は其^{その}馬^ば也^{なり}と^は先^{せん}鋒^{ほう}の^た敗^{ばい}ま^はり^て同^{どう}て
 と^は其^{その}戦^{せん}の^た果^{くわ}敗^{ばい}と^はい^ふと^は怒^{いか}と^は抑^{おさ}め^られ^ば陳^{ちん}あり^て秀^{しゆ}備^び脱^{だつ}に^お卒^{そつ}する^こと^は及^{およ}び^て其^{その}勝^{かち}の子^こ息^{しき}

秦湯之欺きて是を殺さば後不潔養の罪を責て秦湯が一家を殲し其領地を没
 収するも孟子は所謂人の肉を食むるの殊虞之結峯先を評しては頼朝口有
 蜜腹有刃而忍人也其功大於清盛其罪亦大於清盛膺義仲之惡懲平族之
 暴者其非功之首乎然陽尊天子無拱恭己而躬提挈綱紀節制天下久假不
 歸惡知非其有也自是朝廷零落王道如土可謂罪之魁也此恐一也範頼悞
 而無害何為放之此其忍二也義經勇敢有蓋世之功何為錮之欺秦衡
 以殺義經既而滅秦衡何為食言哉此其忍三也閑景時潛想以屢辱功
 臣何不察之此其忍四也廣常者創業之勲臣而殺之何罪有焉其忍五也
 行家其叔父也全成者其弟也不授封邑不加恩顧其以含怨至於死此其
 忍六也忠頼者甲陽藩鎮義定者遠州之干城共是同姓之親也有功無
 罪或忌其勇殺之或殺其子而使懷怨自反也是忍七也斯七者皆忍之大者

也唯此心上之双雖使頼朝能除其荊榛安其身又所以自鍛其羽翼絕其
 種也北條者雖為婚家元是異姓之姦也堪笑頼朝不知親親也以薄其所
 厚而厚其所薄也北條能繼安忍之意以立其私家猶三卿之於晋三家於
 魯田氏之於齊也頼家之愚實朝之柔寄意於歌鞠以不悟之手悟而勢
 不足乎修禪寺之暴卒鶴岡宮之刺客誰人為之北條之意者路人所知
 也虎兇出於押龜玉毀於檀中其罪雖贖何免哉所謂入我室操我戈以伐
 我者汝曾子曰出乎爾者反乎爾者也非頼朝之謂乎可不戒乎と見え
 實不確福といふ一竊小軍紀野史等と按ざるに多く滅ぶ者と賤し興ぶ者を称
 譽するは其書の文法あり故に重き復るに精多うせむ唯その紙上と澄と
 と法に履賤とす一尋心言行の則とすなりこふ故に勅由まじく好める所不從にて
 佞に陷る所に陷るを條の勇と潔と一思慮深きと比喩とすまの類ひ由まじくを

とせんや。試みお見と辨ぶに。源家六孫王後基より。源家朝臣に至るまで。八実小法師の畧備を以て。朝家の口獲りけしと。新羅三郎義光の甥なる義忠と偏執に因て。密詔誅し。且見か加後次郎の所持し。久遠淡路の太刀と其の場へ捨あまき。猶子為るその敵の義綱加茂。あつんと殺し。是を代んて。奏破を義綱宛と解おし。領地へ引籠りけし。と。其の罪給と申す。と。為義甲斐の城と圍。義綱の子を以て。始め。個志討死也。夫より。誓く。吾為る。保元の礼。及公軍の慣ひ。と。いひ。義朝一人。官方に希。為義多。其の子息と。俱て。院方に属し。う。忽地。敗亡。さ。に。因て。為義と。始。め。子。息。達。悉く。誅。せ。る。而。由。為。義。の。子。息。義朝。義平。と。武。義。比。命。那。大。藏。谷。光。行。を。討。つ。是。より。源。太。義。平。以。悪。の。字。と。被。り。せ。り。儲。頼。朝。の。一。世。不。至。り。從。才。者。本。曾。義。仲。院。宣。あ。ら。と。是。と。縁。し。其。の。子。義。高。八。塔。あり。子。あり。是。を。嫌。疑。て。遣。わ。り。て。武。義。の。入。間。郡。に。殺。し。最愛の女兒大娘。其の眷戀の情。不。堪。以。飲。食。を。断。て。是。以。死。せ。直。に。自。殺。小。間。郡。國。史。畧。出。の。條。に。頼。朝。の。女。を。殺。し。と。記。せ。り。是。春。秋。の。文。法。之。も。範。頼。義。仲。の。二。子。を。殺。し。靜。か。産。る。怨。の。烟。と。由。殺。せ。且。其。の。叔。父。も。前。備。前。守。行。家。孫。叛。の。岐。え。あ。ら。と。文。治。二。年。に。殺。し。了。弟。全。成。音。名。今。義。建。仁。三。年。五。月。の。比。羅。叛。の。岐。え。あ。ら。に。因。て。幸。陸。奥。へ。流。き。し。の。い。ひ。又。八。田。右。衛。門。尉。作。と。奉。て。下。野。也。殺。せ。と。由。傳。え。り。同。根。連。枝。で。な。り。り。に。殺。せ。り。人。を。古。今。小。解。し。其。の。武。備。祖。先。より。盛。り。て。他。姓。の。及。ぶ。さ。き。あ。ら。と。む。就。中。頼。光。頼。義。義。家。二。代。の。大。功。の。宛。り。鬼。神。の。如。し。て。後。世。の。龜。澄。と。享。べ。し。信。い。ふ。其。の。末。に。至。り。同。姓。討。つ。討。ま。り。と。一。族。怨。故。と。る。ま。り。と。名。家。の。姓。と。申。す。一。平。

源太義平以悪の字と被りせり。儲頼朝の一世不至り。從才者本曾義仲。院宣あらし。と。是。と。縁。し。其。の。子。義。高。八。塔。あり。子。あり。是。を。嫌。疑。て。遣。わ。り。て。武。義。の。入。間。郡。に。殺。し。最愛の女兒大娘。其の眷戀の情。不。堪。以。飲。食。を。断。て。是。以。死。せ。直。に。自。殺。小。間。郡。國。史。畧。出。の。條。に。頼。朝。の。女。を。殺。し。と。記。せ。り。是。春。秋。の。文。法。之。も。範。頼。義。仲。の。二。子。を。殺。し。靜。か。産。る。怨。の。烟。と。由。殺。せ。且。其。の。叔。父。も。前。備。前。守。行。家。孫。叛。の。岐。え。あ。ら。と。文。治。二。年。に。殺。し。了。弟。全。成。音。名。今。義。建。仁。三。年。五。月。の。比。羅。叛。の。岐。え。あ。ら。に。因。て。幸。陸。奥。へ。流。き。し。の。い。ひ。又。八。田。右。衛。門。尉。作。と。奉。て。下。野。也。殺。せ。と。由。傳。え。り。同。根。連。枝。で。な。り。り。に。殺。せ。り。人。を。古。今。小。解。し。其。の。武。備。祖。先。より。盛。り。て。他。姓。の。及。ぶ。さ。き。あ。ら。と。む。就。中。頼。光。頼。義。義。家。二。代。の。大。功。の。宛。り。鬼。神。の。如。し。て。後。世。の。龜。澄。と。享。べ。し。信。い。ふ。其。の。末。に。至。り。同。姓。討。つ。討。ま。り。と。一。族。怨。故。と。る。ま。り。と。名。家。の。姓。と。申。す。一。平。

氏いさるに異なり。保元の乱も清盛の叔平馬助忠正を勅命によりて清盛を討つ。其
餘前後に一族を誅する事と成り。系師と成りて西海へ漂ふ時、君臣上下より其心を
一にして救ふ者もあらず。敗績するに及び親族悉く海に没せり。其地の利久
の和と表はと亞歴の金言ありと史と人知と。猶滅ぶ現に積悪の餘殃と云えん
乎。かくて洋海の強暴と人々大憎の修と其悪と算ふ事と。後朝父と殺さる罪者
の久々寡きものなる故と。悪と史と史と小原厚と云ふ事との差別あり。よく堅とよく悟
て明らにせざんばあざむく史と讀者の緊要之國史畧清盛薨るの條に云。夫公恣
朝権幽。法皇千古之大罪而其志不在篡奪。雖謂不知君臣之名義。要之
白河帝庶子得縱推勢耳。朝憲紊亂非出他家也。余每言公暴行。出驕子
詈母而已。云々と云えて。其論最細とあり。看る人深く味ひて。其得失を致す。

